

はじめに

応用講座で勉強を始める小学校六年生のみなさま

これから勉強を始めるにあたって、大切なことをまとめておきました。

大事なのは、「今どれぐらいできているか」ではなく、これから勉強をはじめて「どれぐらい理解できるようになるか」です。今より一歩でも前に進めるよう一緒にがんばっていきましょうね。

勉強方法

文章問題

①読む

—— まず文章を読みましょう。

②線を引く

—— 大切だと思うところにチェックをしま
しょう。

③問題を解く

—— 文章の後についてある問題を解きましょ
う。

④文章の解説動画を見る

—— わからないところがあれば、ノートを
とつておきましょう。

※③と④は入れかわってもかまいません。

⑤問題の解説動画を見る

—— 丸つけをしながら、まちがつたところを
理解しましょう。

授業動画は《文章（本文）の解説 ↓ 問

題の解説》の順で展開されているので、①②
の段階で難しく思うのであれば、まず④の解
説を見てから問題を解いてください。その後、
問題を解いてみましょう。

⑥復習

—— 文章を音読し、意味のわからないところ
がないか確認。

—— また、まちがつた問題、正解していくたけ
れどよくわかつていなかつた問題をも
どつて確認しましょう。

知識問題

①知識の解説動画を見る

——問題を解く前に必ずチャプターの解説を見てください。

——まちがつた考え方で解いてしまうと、まちがつた考え方のクセがしてしまうので、その前に動画で正しい考え方を理解してから解きましょう。

②問題を解く

——考え方を身につけた後に、問題を解いてみましょう。



③問題の解説動画を見る

——丸つけをしながら、まちがつた問題の考え方を理解していきましょう。



④復習

——まちがつた問題をしつかり見直し、やり直しましょう。自分の考え方があがつていなかか確認したり、覚えないで解けないところは暗記したりしてください。

目 次

第一講	文学的文章①	p. 5
第二講	文学的文章②	p. 10
第三講	说明的文章①	p. 18
第四講	说明的文章②	p. 24
第五講	文学的文章③	p. 33
第六講	文学的文章④	p. 38
第七講	说明的文章③	p. 47
第八講	说明的文章④	p. 52
第九講	文学的文章⑤	p. 60
第十講	文学的文章⑥	p. 66
第十一講	文学的文章⑦	p. 75

第十二講	文学的文章⑧	p. 80
第十三講	说明的文章⑤	p. 89
第十四講	说明的文章⑥	p. 94
第十五講	文学的文章⑨	p. 104
第十六講	文学的文章⑩	p. 109
第十七講	詩	p. 118
第十八講	短歌・俳句	p. 127
第十九講	品詞①	p. 137
第二十講	品詞②	p. 143
第二十一講	品詞③	p. 152



◆人物・場面をとらえる

人物とは「だれが」のことです。場面とは、「いつ」「どこで」のことです。この二つに、事件（「どうして」「どうなった」）を加えた三つを「物語の三要素」といいます。物語には必ずこの三つの内容が入っており、この三つをとらえることが物語を読みこなすことにつながります。

(1) 人物像のとらえ方

物語には、さまざまなおかげが登場します。登場人物の性格・人柄・個性のことを人物像といいます。

① 直接表した言葉に注目する……「やさしい」

「短気」など。

② 外面的な特徴をおさえる……職業・服装・顔つきなどをおさえましょう。

③ 内面的な特徴に注目する……感じ方・考え方

方・性格などを、表情や態度、言動からつかみましょう。

(2) 場面・事件のとらえ方

場所や季節、時刻などだけではなく、どんなできごとがあつたのか、どんな状況なのがつかみます。

① できごと……だれが、いつ、どこで、何を

したのか、その場で何が起つたのかをしっかりとおさえましょう。

② 状況……できごとやその場にいる人物の様子をおさえ、その場面がどのような様子であるのかをとらえましょう。

一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学六年生の二郎たちは、引っこすことになつた幼なじみの克ちゃんのお別れ会として、多摩川の源流をたどるキャンプに出かけた。

翌朝四時半に、セットした目ざまし時計が鳴つた。^①四樹だけはまだよく眠つていたが二郎、克ちゃん、和也、久里は起きた。

きのうの夜、八時半に、四樹といつしょに寝たので、睡眠はじゅうぶんにたりていた。体調が万全な5ので、二郎はほつとした。今日は、克ちゃんもいつしょに源流の道をたどる最後のチャンスだ。みんなそろつて、多摩川のはじまり、水干まで登るのだ。^②バテてなんかいられない。

かなり冷えこんでいるが、天気は晴れだ。まだ梅雨のさなか、ラッキーだった。

克ちゃんが火をおこして、久里がカレースープを作っている間に、二郎と和也で、寝袋を丸めて袋に

しまつたり、他の荷物を片づけた。
五時には、四樹を起こして、カレースープとパンの朝ごはんを食べた。食べている間じゅう、^③四樹は、いつになく無口だつた。

「四樹ちゃん、まだ眠いの？」
と、久里が聞いた。

「ううん。眠くない。なんだかここがズキズキするの。」

と、四樹は緊張したようすで心臓のあたりを押さえた。

食べ終わると、すぐに出発した。今日一日の行程を考えたら、一分もむだにしたくなかった。^④鍋は水につけておいて、帰つてから洗うことにした。みな、^②デイパックを背負つて、中には、雨具、コップ、水とおやつが少し入つていて、その少しの荷物も、四樹には持たせないほうがいいと考えて、二郎は自分のデイパックに入れてやつた。その少しの荷物も、四樹には持たせないほうがいいと考えて、二郎は自分のデイパックに入れてやつた。

キャンプ場の奥から、森の中を二十分くらい歩いたら、車道に出た。さらに、十五分ほど車道を行くと、笠取山の登り口、作場平に着いた。

そこから、山道がはじまる。「源流の道」と呼ばれているコースだ。

「わたし、先頭を行く。」

といって、地図を持つている久里が、登りはじめた。
〔⑤ 四樹、久里のあとについていけ。〕

と二郎がいうと、四樹は緊張した顔で、うなずいた。二郎と克ちゃんと和也が、そのあとからついていく。川の流れの音を聞きながら、うつそと木立の中の、ゆるやかな坂道を登つていった。朝六時過ぎ。まだずしい。

「チチチチ……」と、鳥の鳴く声が聞こえてくる。

久里は、帰りのことを考えているらしく、けつこう早いペースで登つっていく。四樹の、ハアハアいう息の音が聞こえてくる。じきに、汗ばんできた。やがて、三十分ほど登ったころ、二本の川が合流

している所にぶつかった。久里が地図を見て、「多摩川の本流は、こっちだよ。」

と、右の支流を指さした。

道は、そこから本流をはなれて、森の中へと続いく。

「このあとは笠取小屋の近くに行くまで、もう水はないから、ここで飲んでいこう。」

と久里がついて、休けいした。

〔三み輪ひろこ
『最後の夏休み』〕

*一四樹＝二郎の妹で、小学一年生の女の子。二郎は、家の事情で、四樹を連れてキャンプに参加した。

*二デイパック＝ハイキングなどに用いる小型のリュックサック。

問一

——線①「二郎、克ちゃん、和也、久里は起きたした」とあります。キャンプ場を出発するまでの四人の様子として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 多摩川のはじまりを見るのが楽しみで、はしゃいでいる。

イ 時間を有効に使うために、てきぱきと行動している。

ウ 余裕^{よゆう}をもって行動できなくて、いらっしゃっている。

エ 計画どおりに行動しなくてはいけないと思^い、緊張している。

問二 この日の目的地はどこですか。文中から二字で書きなさい。



問三

——線②「バテてなんかいられない」は、だれの思^いですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 四樹 イ 二郎 ウ 克ちゃん
エ 和也 オ 久里



問四

——線③「四樹は、いつになく無口だつた」とあります。それはなぜですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 自分だけ五時まで寝ていたことを申し訳^{わけ}なく思^いつたから。

イ 朝早くに起こされて、きげんがよくなかったから。

ウ つかれていたため、口をきく元気がなかつたから。

エ 歩き切れるかどうか心配で、緊張していたから。



問五

——線④「四樹がバテたら、今日のいつさいの予定は、狂つてしまふ」とあります。が、二郎たちが予定どおりにいくことを強く願っているのはなぜですか。次の□にあてはまるこ**ば**を文中から十五字で書きぬきなさい。

今日は、幼なじみのみんながそろつて多摩川

の
だから。

問六

——線⑤「四樹、久里のあとについていけ」

とあります。このように二郎が言つたのはなぜですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア これ以上歩かせるのは無理かもしけないと不安になつたから。

イ 久里のあとをついていけば登り切れると
思つたから。

問七

この場面から考えて、久里はどんな女の子だとわかりますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ら選び、記号で答えなさい。

判断力と れる女の子

イ 思いどおりにならないと気がすまない、自

分勝手な女の子

ウ 自分に対しても人に對しても嚴 きび

強い女の子

弱い人のことには気が回らないが、明るく

元気な女の子

1

ウ 少しでも緊張をほぐしてあげたかったから。
工 四樹のめんどうをみたくないなかつたから。

1

第二講 ● 文学的文章②



一題目 次の文章を読んで、あととの間に答えるなさい。

になつた。

「歩くのおそくするからね。四樹ちゃん、とまらないで、ゆっくり歩きつづけなきやだめだよ。」と、久里がいった。

川は、幅一メートルほどの小さな流れだ。川の縁までおりていくと、空気が A した。

「すごく水がきれい。」と、久里がいった。

みんなは、澄んだ川の水を飲んだり、顔を洗つた

りした。汗をかいていたので、冷たい水が気持ちいい。

5

和也は水筒を出すと、キャンプ場で入れてきた水を捨てて、川の水を入れた。

「多摩川の子どもだね。」と、四樹はいった。

少し休んで、出発した。再び、森の中の道を登つていく。

一休坂に入つたあたりから、道は急になり、四樹のペースが落ちた。少し登つては、立ちどまるよう

10

しばらく登つた所で、小さな流れを横切つた。多摩川の支流の沢だ。そこからは、沢沿いの急な坂道を登つていった。

しだいに暑くなってきた。森の木々の葉の間から、日の光がもれてくる。山に太陽が当たりはじめたのだ。四樹の足が、少しふらつくようになつた。それを見て久里が、

「少し休もう。」といつた。

二郎がコップをわたすと、四樹はチヨロチヨロの

25

20

15

流れから水をくんで、ごくごくと飲んだ。みんなも、次々に飲んだ。

笠取小屋に着いたのは、八時過ぎだつた。小屋の前の広場に、テーブルとベンチがいくつか置いてある。

「もう、だめ。」

四樹が、ベンチにぺたんと座りこんだ。

「もう、歩けない。」と、情けない声でいう。

先を急ぎたいところだけど、また少し休んでいく

ことにした。こんな所に、四樹だけ置いていくつてわけにはいかない。

「ほら、ほくら、もうこんなに高く登つたんだぜ。」^②

と、克ちゃんが遠くの山並みを指さした。

山々は、下のほうに見えた。

「水干までは、もうちょっとだよ。」^③

「多摩川の赤ちゃん、見にいこう。」^④

和也と久里の言葉に、四樹はこくんとうなずいた。再び登つていくと、木々がまばらになり、クマザサのおいしげる平らな所に出た。真っ白い入道雲が、

45

40

35

30

B わきでている。正面には、笠取山の山頂が、こんもりと隆起しているのが見えた。

やがて、笠取山へ行く道と、水干に行く道との分岐に出た。本当なら、あまり暑くならないうちに、まっすぐ笠取山の頂上をめざしたいところだ。けれど、まだ四樹に力が残っているうちに、多摩川の最初の一滴を見せてやつたほうがいいと、二郎は思つた。今のように、四樹がどこで力つきるかわからぬ。

久里も克ちゃんも和也も同じ意見だつたので、笠取山に行くルートからはずれ、水干に行くわき道に入つていった。

(三輪裕子『最後の夏休み』)^⑤

*一隆起||土地などのある部分が高く盛り上がるのこと。

*2分岐||（道などの）分かれめになつてゐる所。

*3ルート||道すじ。経路。

60

55

50

問一

□ A・B にあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア どんよりと イ ひんやりと
ウ もくもくと エ ざわざわと



問二

——線①「四樹のペースが落ちた。少し登つては、立ちどまるようになつた」とあります。このあと、四樹の足どりにつかれが見えてきました。そのことがはつきりとわかる一文を文中からさがし、その初めの五字を書きぬきなさい。



問三

——線②「ほら、ぼくら、もうこんなに高く登つたんだぜ」とあります。こう言つたときの克ちゃんの気持ちとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア こんなに高い所まで登つてこられたので、もう十分だと満足する気持ち

イ こんなに高い所まで登つてきたんだと、自分たちのペースの速さにおどろく気持ち

ウ つかれきつてしまつた四樹を、少しでもはげましたいという気持ち

エ 「もう、歩けない。」と情けない声を出した四樹に、いらっしゃる気持ち



問四

——線③「赤ちゃん」とあります。ここでは「赤ちゃん」は何を指していますか。文中から五字で書きなさい。

問五

——線④「四樹はこくんとうなずいた」から感じられる四樹の気持ちとして最も適当なもの

を

次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア つかれて いるけれど、もう少しがんばつて
みよう。

イ もう少し歩けば水干に着くなんて、うれし
い。

ウ 早く多摩川の赤ちゃんを見てみたい。

エ 本当にもうちょっとなのかな、あやしい。

問六

——線⑤「同じ意見」とあります。具体的にはどんな意見ですか。文中から三十七字でさがし、その初めと終わりの四字を書きなさい。

問七

この文章では、二郎たちはどんなコースを歩いていますか。次のうちから四つ選び、順に記号で答えなさい。

- ア 笠取小屋

イ 一休坂

ウ 多摩川の水干

エ 多摩川の水干に行くわき道

オ 笠取山へ行く道と水干に行く道の分岐

カ 笠取山の山頂

二題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

と首をふって、いった。

「四樹ちゃん、水ためて飲みなよ。」

「そうしなよ。」と、和也もいう。

多摩川の最初の一滴は、土からしみだし、岩をつたってポタツ、ポタツと、したたり落ちていた。上には大きな岩が突き出している。何も書いてなければ、見のがしてしまいそうな、ふつうの山の斜面だつた。

けれど、そこには、

『水干。多摩川の源頭。』

最初の一滴。東京湾まで

138km

と書かれた杭が、しつかりと立つていてる。

「多摩川の赤ちゃんだ。」

それまで、むつりと歩いていた四樹が、はじめ

て笑つた。

「克ちゃん、ほら。」

といって、二郎は、リュックの中からコップを出してわたした。すると、克ちゃんは、

「ううん。」

15

10

5

だ。だれだつて、すぐに飲んでみたい。でも、みんなはその役を、四樹にゆずつてくれようとしていた。久里までが、笑つてうなづいたのを見て、二郎はコップを四樹にわたした。

四樹は神妙な顔で、水が落ちてくる下にコップを置いた。

一滴ずつたまつていく水を見て、四樹が、突然

目をつぶつて、両手を合わせた。

「何してんだよ。」と、二郎は聞いた。

「お祈り。」と、四樹が答える。

「神さまってわけじゃないんだぞ。」

と二郎が笑うと、すぐに久里が、

「ううん。ここ水神さまがまつてあるんだつて。」

といって、大きな岩の上のほうを指さした。そこには、『水神社』と書かれた石板がある。それから、

35

30

25

20

久里は、

「四樹ちゃん、何をお祈りしてるの？」と聞いた。

「またいつか、克ちゃんに会えますように……。」

② ちよつとの間、だれも口をきかなかつた。やがて、

克ちゃんが、

〔③*③〕
「ぼくが引っこすとこ、この一滴が、ずっと流れてい
いく東京湾のもつと先の、太平洋の海の真ん中にあ
るんだ。船に乗つて、遊びにおいでよ。」

といつた。

「うん。」

と四樹はうなずくと、コップに少したまつた水を、

ごくっと飲んだ。

「おいしい。」

四樹はそういつて、笑つた。

けれど、みんなが、一滴ずつ落ちる水をためて飲
んでいるような時間は、もうなかつた。久里が近く
にある葉をとると、葉の一部をおさえて、小さな器
のようになつた。そこに、したたり落ちる水を二、三

50

45

40

滴受けて、口に入れた。

克ちゃん、和也、二郎も、次々に葉っぱに二、三
滴のしづくを落とした。舌で受けると、不思議な味
がした。

多摩川のはじまりの味だ、と二郎は思つた。

(三輪裕子『最後の夏休み』)

*1 源頭 || 川の最初の一滴が始まる所。

*2 神妙 || すなおで、おとなしい様子。

*3 ぼくが引っこすとこ || 克ちゃんは、東京から南に約

百八十キロメートルはなれた所にある伊豆諸島の三宅島に引っこすことになつて いる。

55

問一

——線①「やつと、多摩川の最初の一滴にたどりついたのだ。だれだつて、すぐに飲んでみたい」とあります、「多摩川の最初の一滴」をだれがいちばん先に飲むかについて、適当でないものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 二郎は、もうすぐ引っこしてしまった克ちゃんに飲ませてあげたいと思った。

イ 克ちゃんは、がんばって歩いてきた四樹に飲ませてあげたいと思った。

ウ 和也は、克ちゃんの意見に賛成して、四樹に飲ませてあげたいと思った。

エ 久里は、みんなががまんしてまで、四樹に飲ませてあげるのはおかしいと思った。

——線②「ちょっとの間、だれも口をきかなかつた」とありますが、それはなぜだと考えられますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア いくらお祈りをしても、もう二度と克ちゃんには会えないと思い、悲しくなつたから。

イ 四樹のお祈りの内容を聞いて、改めて克ちゃんと別れることを思い、さびしくなつたから。

ウ 四樹のお祈りによつて、多摩川の源頭に着

いた喜びがうすれてしまい、腹立たしかつた

から。

エ 神さまがまつてあるかどうかも知らずにお祈りしている四樹が、かわいそうだつたから。

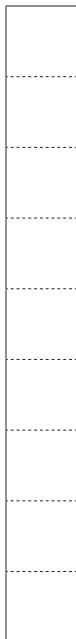


ら。



問三

——線③「ぼくが引っこすとこ、この一滴が、ずっと流れていく東京湾のもとと先の、太平洋の海の真ん中にあるんだ」とありますが、克ちゃんは、みんなにどんなことを伝えたいのだと考えられますか。次の□にあてはまることばを文中から九字で書きぬきなさい。



□が流れていく先の太平洋の真ん中に、自分がこれから住む島があるので、またみんなに会えるということ

問四

「水干」は、どんな場所ですか。次の□にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

一見ふつうの□だが、□

からしみだした水は、岩をつたつてしたたり落

ちていて、この水が多摩川の水となる。また、その上には□と書かれた石板があ



り、□がまつらされている。

第三講 ● 説明的文章①



◆指示語

指示語とは、「これ・そこ・あの・どっち」などの、物事を指示する「ことば」、「こそあどことば」ともいいます。

(1) 指示語の指示内容のとらえ方

指示語の指示内容は、ふつう指示語の前にあります。指示語に近いところから順に前にもどりながらさがしましょう。

(2) 指示語に置きかえられる形にする

ことばの終わりを変えるなどして、指示語にあてはめて文の意味が通じるような形に整える必要がある場合もあります。

ことばです。

1 前の内容があとの原因・理由となる（順接）
…だから・すると・したがって・それで・そこでなど

2 前後の内容が逆になる（逆接）

…しかし・でも・ところが・など

3 前の内容にあとの内容を並べたり、付け加えたりする（並立・累加）
…そして・また・さらに・そのうえ・など

4 前後の内容を比べたり、どちらかを選んだりする（対比・選択）
…それとも・または・あるいは・など

5 前の内容に説明や補いをする（説明）
…つまり・なぜなら・など

6 前と話題を変える（転換）
…さて・ところで・では・など

◆接続語

接続語とは、語句と語句、文と文、段落と段落などをつなぎ、その関係や意味のつながりを示す

接続語とは、語句と語句、文と文、段落と段落などをつなぎ、その関係や意味のつながりを示す

一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

わたしはニューファンドランドを抱だき、指をすべらせて体を調べた。

頭を除いた犬の体は、おおざっぱに二つの部分にわけられる。前半身と後半身だ。後半身には腸や肝臓などがしまわれている。前半身には何本ものろつ骨に守られて肺がある。

胸が厚くて、肺の部分が大きいのである。なるほど、だから浮くのかと納得した。

泳いでいる犬を追いかけ、わたしはもぐり、水の中からながめてみた。と、これまた予想とはまつたくちがっていた。

体がななめになつているのである。

人だと、体はまっすぐ後ろに伸ばしている。伸ばしておいて、足をばたつかせたり、かえるみたいに動かしたりして推進力を得ている。(A)、犬の場合、体の後ろ半分は深く沈んでいて、後ろ足を交う

互に動かして前へと進んでいた。
水難救助犬として、水に浮かんで仕事をするためには、□が大きな役割をはたしているのが一目りょうぜんだつた。

近づいて、体にふれてみた。(B)、わたしの指がふれたところから空気の泡が飛びだし、銀色に光りながら上にのぼつていった。

「ああ、そうか。」

またまた目からウロコが落ちた。

ニューファンドランドは、寒い北の島で誕生した品種だ。下毛は長く、しかも密生している。彼らはそこに、空気をもつてているはずである。空気の層を着て泳ぐ——人のウェットスーツと同じ原理であり、保温と同じに浮力を得るのに役立っている。

うまくしたものだ。毛は、防寒、防水の役目をはたし、水に入った際には浮力をくわえるウェットスーツにもなつていて。

ここにまた、もう一つつけくわえておかねばならない。温度が四十度以上になる砂漠で暮らす人たち

は、暑いからといって裸^{はだか}で生活してはいない。砂漠^{さばく}の民^{たみ}は、頭から足先までを白い布ですっぽりおおっている。

わたしは砂漠へ行き、彼らとラクダで旅をしてみた。ものすごい暑さだった。目もくらむというはげしさの表現があるけれども、ものの十分ほど外にいると、暑さに負けて意識を失いそうになつた。

外に鉄板を置いておけば、^④その上で目玉焼きがで

きる。

直射^{ちょくしゃ}日光は、すべてのものを焼きつくすほどの強さだ。^⑤それをふせぐのが衣服である。寒さから人を守ってくれるものは、暑さからも守ってくれるわけだ。

(C) 毛は、虫よけとしてもすぐれている。

野山には、血を吸^すいにくる蚊^かがいる。

わたしは一年間、無人島で秋田犬^{あきたけん}をふくむ五匹^{ひきの}の

犬と住んでいたことがある。

夏、彼らと外で寝^ねたりした。

犬はまず、寝場所をさがす。あちこちうろつき、

50

45

ここぞという場所をクンクンかぎはじめるのである。⁵⁵やがて、まえ足でせつせとそこを引っかきはじめる。枯れ草や枯れたいばらなどが後ろにほうり投げられる。犬は、かなりしつこくそうじした後で、ここにぴたりと腹^{はら}をつけて丸くなつた。

(畠正憲)^{はたまさのり}『犬 イヌはぼくらの友だちだ』

* 一目りようぜん^⑥ひと目見ただけではつきりわかること。

* 2目からウロコが落ちる^⑦今までよくわからなかつた

ことが、何かのきつかけでとつ然よくわかるようになること。

* 3ウェットスーツ^⑧水の中にもぐるときに着る服のこと。

* 4浮力^⑨液体や気体が、その中にあるほかの物体を浮き上がせようとする力。

問一

（ ）A～Cにあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア そして イ すると
ウ つまり エ ところが

A
B
C

問二

——線①「だから浮くのかと納得した」のは、ニューファンドランドの体がどうなっているからですか。「から」につながる八字のことばを文中から書きぬきなさい。

から。

問三

——線②「泳いでいる犬」を水の中からがめてみるとどんな様子だったのですか。人と比べてまとめた次の表にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

犬	人	体の様子
い る。 3	に伸ばしている。 1 体の後ろ半分は	体は
動 かして いる。 4	に動かしたりして いる。 2 後ろ足を	ばたつかせたり、 進むための足の動かし方

問四

□にあてはまることばとして最も適当なものを漢字一字でぬき出しなさい。

問五

——線③「そこ」の指す内容になるように、次の□にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

が、

いる

ところ

問六

——線④「その」、⑤「それ」の指すものとして最も適当なものを次のうちから選び、それ記号で答えなさい。

ア 砂漠

イ ラクダ

ウ 鉄板

エ 目玉焼き

オ 直射日光

 ④

 ⑤

問七

——線⑥「そこ」の指す内容になるように、次の□にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

として

問八

筆者は、犬の毛はどんな役目をしていると
言っていますか。適当でないものを次のうちか
ら一つ選び、記号で答えなさい。

ア 寒さだけでなく、暑さからも身を守るはた
らきをする。

イ 水の中に入つたときに、速く泳げるよう
にする。

ウ 防水のはたらきや、浮力を得るはたらきを
する。

エ 血を吸いにくる蚊などの虫よけになる。



第四講 ● 説明的文章②

一題目 次の文章を読んで、あとの間に答へなさい。

蚊は、動物の皮ふから排出される^{*1}炭酸ガスを道しるべにして飛んでくるのだから、たとえ深い草の中にかくれたって、蚊をふせぐのには役立たない。

蚊は犬にとまつた。

わたしは興味津々、じつと見つめている。

蚊は長い毛にとまり、長い毛ぞいに犬の皮ふへと入っていく。だが、密生する下毛の層まで達すると、しばらくもがいているが、上へと毛をよじのぼってきた。

無人島だから、蚊は雲みたいにたくさんいた。犬は、蚊だらけになつたけれど、皮ふにたどりついて血を吸えるものはほとんどなかつた。

動物の毛が蚊よけとして役立つているのを知つたわたしは、なるほどどうなずき、いたずらをしてしめつけの行動をするはずである。

(B) 日暮れには、蚊がどつと飛んでくる。

犬を起こし、背を自分のほうにむけて抱いてみた。



(C)、蚊に腹を見せてあげたのである。そこには毛があまり生えていないので、蚊たちは、先を争つてもぐりこんできた。

長い毛で顔全体がおおわれているベアデッドリコリーなどがいるが、シェパードや秋田犬は、よく見ると顔の部分には下毛があまり生えていない。毛も短い。

蚊やダニは、だから顔をねらう。^③

そこで犬たちは、眠る際には丸くなり、顔をかくし、虫の攻撃から身を守るわけである。

長い毛と短い毛と二種類ある。これはなぜだろ
う?
わたしはつめ切りで、長い毛を根もとから刈り
とつてみたことがある。

すると日ならずして、下毛がもつれはじめた。毛
玉があちこちにできて、ブラッシング(ブラシで毛
をすく手入れ)ができなくなつた。ひどいところでは、もつれた毛が板状になつた。

もしもだ、そのような犬が外で遊び、泥などが毛

についたら、犬は泥の板を着ることになつてしまふ。空気が通わなくなり、皮ふ病などの原因になるだろう。

かたく長い毛が、適当な間かくでやわらかい下毛の中にあることは、下毛の状態を正常に保つのに役立つていたわけだ。

やがて雪がふつた。

下毛だけの犬が、さつそつと出ていき、雪の中で遊んだ。

すると、どうだ。雪が玉になつて毛にくつついた。玉の大きさはいろいろだ。こぶし大のものもあれば、ピンポン球ほどのものもあつた。犬は雪玉の飾りを無数につけ、ピエロになつたみたいだつた。もちろん、長い毛をもつ犬には、雪玉などくつついていなかつた。バランスよく生えている毛は、犬をきれいに保つのにも役に立つていて。

(畠正憲『犬 イヌはぼくらの友だちだ』)

*一排出=いらないものを外へ出すこと。

*2炭酸ガス=二酸化炭素のこと。生物の呼吸によつて、

体の外へ出される。

*3日ならずして＝何日もたたないうちに。

問一 () A～Cにあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア さて イ しかし
ウ しかも エ つまり

A

B

C

問二 () 線①「すべての犬がこの行動をとるわけではない」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「この行動」が指している五字のことばを

文中から書きぬきなさい。

(2) すべての犬が「この行動」をとらないのはどうしてか、ということについて説明されて
いる一文の最初の五字を書きぬきなさい。

問

——線②「蚊は犬にとまつた」について、次の問い合わせに答えなさい。

(1) 蚊は、何によつて犬をさがしてとまつたのですか。文中から十三字で書きぬきなさい。

(2) 犬にとまつた蚊についての説明として最も

適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 苦労はしたが、ほとんどどの蚊は血を吸うことができた。

イ 蚊は犬が苦手なので、すぐに別の所へ飛んでいった。

ウ 下毛の層に達することができた半分くら

工 下毛のために皮ふにたどりつけない蚊が

ほんとだつた。

1

問四

——線③「顔をねらう」のは、その犬の顔の部分がどうなつているからですか。文中のことばを使って、二十字以内で書きなさい。

問五 線④ 「そのような犬」とはどんな犬ですか

から書きぬきなさい。

犬

問六 犬の長い毛を根もとから刈りとつてみてわ

ら選び、記号で答えなさい。

ア 長い毛は下毛がもつれるのをふせぐ。
イ 長い毛は蚊が皮ふにたどりつくのをふせぐ。

エウ

長い毛は雪の中での寒さをふせぐ。
短い毛だけでも雪がつくのをふせぐ。



【一題目】次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

と、セーターが必要になり、夜中には冬用のコートがいるほどだった。

犬にとつて毛は、欠くべからざるものだ。それが生えていない品種がいるので、わたしは手もとに置いてみたくなつた。

やがて、思いが天に届いたのか、オスとメス一匹ずつがやってきた。名まえはすぐに決まつた。アダムとイブ。

两者ともに歯ならびが悪かつた。

すぐさま資料を調べてみると、遺伝的に歯に欠損があると記されていた。とにかく変わつた犬だつた。イブがひざの上に乗つてくると、まるで作りたての弁当箱がそこにあるみたいにあたたかだつた。

〔①インカの伝説はほんとうかもしれないな。〕

わたしはそう思つた。

インカ帝国は、海拔三〇〇〇メートル以上の高い山の上で栄えた。赤道に近いので昼間は暑いとしても、夜になると冷えこみがきつくなる。日が落ちる

抱いて寝たのだそうだ。湯たんぽ代わりにしたわけだ。湯たんぽ犬だ。

（A）インカの人たちは、ヘアレス＝ドッグを冬、雪がふると、アダムとイブは目に見えてやせてきた。

わたしは彼らを調べ、栄養のせいだと結論した。彼らには毛がないので、体表からどんどん熱がうばわれてしまうのである。熱、すなわちエネルギーであり、寒さに対抗するためには食べたものがすべてまわされるので、はねまわつたりしたぶん、ためたものが使われ、つまりやせるわけだ。

わたしは、インカ犬のために、高い栄養分をふくんだ特製フードをあたえることを指示した。それによつて、アダムとイブはみるみるふとりはじめた。このことだけでも、犬にとつて□が必需品であるのがわかる。

じゃあクジラはどうだ。なぜアザラシには深々と

毛が生えていないのだという疑問^{ぎもん}が起^る。それこそが科学の母だ。疑問をつぎからつぎにもち、解決するまでもちつづけていると自分の知識、自分の学問が育つていくのである。

クジラやイルカなど、海の中^にすん^でいる、ほ乳^{にゅう}動物には、皮ふの下^に、特別^{*3}な脂肪^{しぼう}の層^{そう}がある。それが熱をしや断^{して}いて、体の外^ではなく、内側^に、文字^どおりインナーを着^{こん}でいるのだ。

よくしたものだよ^ね。いつも水の中^にすん^でいるのだから、どんなに加工しても毛は水にぬれてしま^い、防寒材としては使えないのだから。それで彼ら⁽⁴⁾は、特別な脂肪の層を開発したのである。

(B)、ヘアレス^{II}ドッグは、体毛^がなく、歯^{けつかん}にも欠陥^{がある}。生きていくためには、不利な条件^{を抱}えこん^でしま^つている。

もしもだれかが、ヘアレス^{II}ドッグを無人島にもちこんだ^としよう。(C)人が引きあげてしま^うと、彼らはぜつた^いに、野犬として生きのこれないはずだ。

人が島におしかけ、犬を連れて^いき、やがて住めなくなり、犬を置きざりにした例はいくつか知^{られ}ている。

あの有名なガラパゴス諸島^{しょとう}にもそのような島があ^り、わたしはそこを訪^ねれ、犬の足あとを追跡^{ついて}したも^のだ。犬たちはその島で増え、三匹から五匹の群れを作つて行動^{して}いる。彼らは、同じく野生化した牛を襲^{おそ}つて食べ^ている。

ヘアレス^{II}ドッグだと、こうはい^かない。人が保護^{して}いないと死に絶え、消え^てしまう。

(畠正憲^{はたまさのり}『犬 イヌはぼくらの友だちだ』)

*一欠損^{II}欠けて不完全^{にな}ること。

*2フード^{II}食べ物。えさ。

*3脂肪^{II}動物では、皮下^{・筋肉^{・肝臓}}などに貯藏^{され}、

エネルギー^{げん}源^{となる}。

*4インナー^{II}下着。

問一 () A～Cにあてはまることばとして最も

適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア さて
ウ そして
エ イ だから
　あるいは

A


問二 線①「インカの伝説」とは、どんなもの

ですか。次の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

ヘアレス＝ドッグを抱いて寝て、いわば

にしていた

という伝説

- 10 -

問三　——線②「冬、雪がふると、アダムとイブは目に見えてやせてきた」とあります。その理由として最も適当なものを次のうちから選び、

記号で答えなさい。

ア 外ではねまわつたりすることが多くなるので、たくさんのエネルギーを使うから。

イ 体表からどんどん熱がうばわれ、ためてい
たエネルギーが使われてしまうから。

ウ 冬になると、寒さのために、食べたものをエネルギーとしてためておけないから。

工 寒いと外ではあまり食べものが食べられない
くなつて、ためていたエネルギーが減るから。

問八

——線③「それ」が指しているものを、文中から十五字で書きぬきなさい。

問五

□にあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 齒 ウ 皮ふ イ 毛 エ 工 脂肪



問六

——線④「彼ら」が指しているのは、どによ

うなものか。文中から書きぬきなさい。



問八

この文章の内容に合っているものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア アダムとイブは、インカ犬にしては例外的に歯ならびが悪い。

イ 体毛のない犬には、特別な皮下脂肪の層がある。

ウ インカ犬は、群れを作らないと生きられない。

エ 体毛のない犬は、野犬として生きていけない。



- 問七 ——線⑤「こうはいかない」とあります
が、「こう」は、どうすることを指して
いますか。それが述べられている部分を文
中からひと続きの二文でさがし、その初
めの九字を書きぬきなさい。



第五講 ● 文学的文章③

◆心情をとらえる

心情とは気持ちのことです。物語文を読むときは、登場人物の心情をとらえることが大切です。

その場合に一番大切なことは、

- ・自分だったらこんなときどんな気持ちになるだろう

- ・こんなことを言われたらどんな気持ちになるだろう

- ・自分がこんなことを言うとしたらそれはどんな気持ちのときだろう

- ・自分がこんなになつたつもりで気持ちを考えることです。そして、次のような点にも注意して、心情をとらえましょう。

(1) 直接的な表現をとらえる

「うれしい」「悲しい」「腹^{はら}を立てる」など、気持ちを直接表した表現をとらえましょう。

登場人物の発言に注目する

気持ちを直接言っていなくても、発言からその人の気持ちがわかることがあります。

(2) 登場人物の行動や様子に注目する

発言だけでなく、行動や様子を表す表現からも、その人の気持ちをうかがうことができます。

(3) 情景から人物の気持ちを考える

人物ではなく、場面の様子を表したことばかりも、人物の気持ちを読み取ることができます。

(4) 情景から人物の気持ちを考える



一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「なんであんなことを言つちやつたんだろう……。」

二月のカレンダーをにらむように見つめながら、
ぼくは何度もため息をついた。

今日は二月十二日——あと一ヶ月ちょっとで、*マコトは転校してしまう。マコトと一緒に過ごせる時間は、カウントダウンのように一日ずつ減っていく。

でも、ぼくとマコトは口をきいていない。

前 *²ガムガム団をやつつけたあと、マコトに「転

校するな！」と言つた。その日以来、ずっと。

あんなこと言わなければよかつた。

マコトが一瞬浮かべた泣きだしそうな顔が、いま

も頭の中から離れない。

あんなこと言わなければよかつた。

教室でマコトの顔をちらつと見かけただけで、胸

がドキドキして、頬が熱くなつて、うつむいたり、そっぽを向いたり、廊下に駆け出したりしてしまつ。

あんなこと言わなければよかつた。」

庭に出て、ワンの犬小屋を見つめた。ワンはもう

いなくなつたのに、からつぽの犬小屋の前に立つと、どこからかワンの鳴き声が聞こえてくるような気がする。

犬小屋の前にしゃがみこんだ。また、ため息をついた。

「どうしたの？」ツヨシ

ママに声をかけられた。

「……なんでもない」

ぼくは薄暗い犬小屋の中をじっと見つめたままだつた。振り向いてママの顔を見たら——なんだか、泣きだしてしまいそだつたから。

「最近、元気ないけど」

「……そんなことないって」

「ワンのこと思いだしてゐるの？」

「うん……まあ……」

ママはクスッと笑つて、「犬小屋もそろそろ处分

しないとね」と言つた。

15

10

5

25

35

30

「捨てちゃうの？」

びっくりして、思わず振り向いた。

ママは笑顔のまま、「だって、いつまでも庭にあってもしょがないでしょ?」と言った。「ワンだって、天国でおうちがないと困つてるかもしれないし」

「それはそうだけど……」

急に悲しくなつてしまつた。ママがそんなことを言い出すのって意外だつた。ママはぼくが学校に行つている間もずっとワンと一緒にいて、家族の中でいちばんワンのことをかわいがつていて……なのに、ママは、もう、ワンのこと忘れてしまつたんだろうか……。

その日の晩ごはんのときも、ママは「ね、そろそろ犬小屋を片づけようよ」とパパに言つた。

パパはちょっと驚いた顔になつて「いいのか?」と聞き返した。「べつにじやまになるわけでもないんだから、そんなに早く片づけなくてもいいんじやないのか?」——そうそうそう、そうなんだよ、ぼく

もパパに大賛成。

でも、ママは「あなたは洗濯物を干したりしないからわからないのよ。あそこにあると、けつこうじやまなのよ」と言う。「今度から、もうちょっと家事も手伝つてちょうだい」

「じゃあ、場所をちょっと動かそうか」

パパは食い下がつたけど、ママは「どこにあつてもじやまなの」とすまし顔で首を横に振る。パパもそれ以上はなにも言えずに、ぼくと目を見合わせて、「ま、しょがないかな」と肩をすくめるだけだつた。

(重松清『くちぶえ番長』)

*一マコト=「ぼく(ツヨシ)」と同じクラスの女の子。

弱い者いじめがきらいな、男まさりな子。

小学四年生。

*2ガムガム団=下級生をいじめる、六年生三人組の男

の子。マコトをいじめようとして、逆にマコトにやつつけられてしまつたことがある。

問一
線①「あんなこと」とは、だれに何と言つ

たことを指して いますか。次の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。(句読

点・記号も一字にふくみます。)

- 10 -

111

と言つた」と

問二　——線②「ぼくとマコトは口をきいていない」とあります。が、「ぼく」がマコトに口をきけない様子がよくわかる一文を文中からさがし、その初めの六字を書きぬきなさい。

11 of 11

おいてほしい。

ママの顔を見たら

ぬきなさい。

なので、そつとして

11 of 11

問四

——線③「……なんでもない」とあります、
このとき、「ぼく」はどんな気持ちでしたか。
次の□にあてはまるごとばを文中から書き
ぬきなさい。

号で答えなさい。

ウ ア
後悔 こうかい
あきらめ

エ イ
怒り いかり
不安 ふぶん

1

問三 「」で囲まれた場面での「ぼく」の気持ちとして、最も適当なものを次のうちから選び、記

問五

――線④ 「びっくりして」とありますべく、「ぼく」がびっくりしたのは、なぜですか。次の□にあてはまるごとばを文中から書きぬきなさい。

「犬小屋もそろそろ処分しないとね」というママのことばが、「ぼく」にとつては

—

から。

問六

——線⑤ 「すまし顔で首を横に振る」とあります
が、この動作からは、ママのどんな様子が
わかりますか。最も適当なものを次のうちから
選び、記号で答えなさい。

ア ワンの死の悲しみを どうにかこらえて いる様子
イ 犬小屋を処分することに関して、決意がかかる様子

ウ 犬小屋を処分したがらないパパに腹^{はら}を立て
ている様子

工 犬小屋の話は、もうこれ以上したくないと
不満げな様子

1

第六講 ● 文学的文章④

一題目 次の文章を読んで、あととの間に答へなさい。

い。

次の日も、マコトに話しかけることはできなかつた。マコトのほうも、わざわざぼくに声をかけたり、こつちを見たりしなかつた。友だちといつもどおりにおしゃべりして、いつもどおりに笑つて、いたずらをするジヤンボやタツチにいつもどおり輪ゴムを5ぶつけて……。

みんな知らないんだ、なにも。マコトはまだ、転校のことをぼく以外の誰だれにも話していない。

最初は、ほんのちょっとだけ、それがうれしかつた。ヒミツを知つているのはぼくだけだ、なんて。でも、いまは違ちがう。マコトがクラスでぼくにだけ転校の話を打ち明けたつてことは、ほかの友だちより早く「バイバイ」を言いたかつたつてわけで、そ

10

5

れつて、誰よりも先にぼくとお別れしたいつてことでもあつて……つまり、マコトはぼくのことなんて大嫌だいきらいで……だからさつさと「バイバイ」しちやつて、ほかの友だちとは一日でも長く友だちでいたいから、まだなにも打ち明けてないのかもしれない。胸むねがドキドキする。緊張きんぢょうするドキドキよりも、もつと痛い。ズキズキ、だ。

② べつにいいけど。そんなの、べつにいいけど。ぼくだつてマコトのこと、なんとも思つてないし。あいつ乱暴だし、そつけないし。そうだよ、転校したての頃ころはもつと無愛想で、「友だちなんていらない」と笑つちゃつて、楽しそうで、③ チヨンマゲをさわらせたりして……。

昼休みが終わつて教室に入るとき、外に出ようとしたマコトとドアの前でぶつかりそうになつた。

25

20

15



もちろん——ぼくは、無視。そっぽを向いてマコトの横をすり抜けようとしたら、⁽³⁾「ちょっと」と呼び止められた。しかたなく立ち止まって、しかたなく振り向いて、しかたなく「なんだよ」と言つた。

30

「ツヨシ、このまえからなに怒つてんの？」⁽⁴⁾頬がカツと熱くなつた。あわてて目をそらして、「べつにい」と言つた。

35

「怒つてるじゃない、やつぱり」

「怒つてないよ」

「怒つてる」

「怒つてないつ……そんなこと言うんだつたら、マ

40

コトだつて……」

「わたしがどうかした？」

「……どうもしてないけど」

そうなんだ。マコトはずーっと、いつものマコト

で、クラスのみんなもずーっと、いつものみんな

45

で、⁽⁵⁾ぼくだけ、ぼく一人だけ、面白くなくて、つま

らなくて、イライラして、機嫌^{きげん}が悪くて……悲しく

て、寂しくて……。

目をそらしたままにも言えなくなつたぼくに、マコトは、ヒューウッとくちぶえを鳴らした。「ま、いいけどね」と軽く笑つて、歩きだして、それつきりだつた。

50

(重松清)『くちぶえ番長』

*一ジャンボやタツチ||「ぼく(ツヨシ)」やマコトと同じクラスの男の子。

*2転校したての頃||マコトは、四年生の四月に「ぼく」

が通う小学校に転校してきた。

*3チヨンマゲ||マコトは、かみの毛を頭のてっぺんでチヨンマゲのように結んでいる。

問一

——線①「ヒミツを知っているのはぼくだけだ」とあります。が、転校することをマコトから聞いたときの「ぼく」の気持ちとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 「ぼく」は口がかたいから、クラスのみんなに信られないされているのだと、いばりたい気持ち

イ マコトは「ぼく」のことをいちばん大切な友だちだと思っているのだと、得意に思う気持ち

ウ マコトが転校することをクラスの友だちに早く教えてあげたいと、そわそわする気持ち

エ 乱暴なマコトが転校すれば、このクラスは静かになるはずだと、ほつとした気持ち



問二

——線②「べつにいいけど。そんなの、べつにいいけど。ぼくだってマコトのこと、なんとも思ってないし」からは、どんなことがわかりますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 「ぼく」がマコトのことを本当は嫌いだと

いうこと

イ 「ぼく」がマコトの勝手な行動を許せないでいること

ウ 「ぼく」がマコトに対して興味がなくなつたこと

エ 「ぼく」がマコトに対して意地を張つていること



問三　——線③「『ちょっと』と呼び止められた」とあります

とあります。このときの「ぼく」の気持ちとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア マコトに話しかけられたことが、内心うれしかった。

イ マコトとは話をしないと決めていたので、どうでもよかつた。

ウ 無視しようとしたのに呼び止められたので、ふゆかいだつた。

エ 「ちょっと」という呼び止め方に腹はらが立つた。

問四　——線④「頬がカツと熱くなつた」とあります。このとき、「ぼく」の「頬がカツと熱くなつた」のはなぜですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア マコトが「ぼく」のことを気にしていたことがわかつて、照れくさかつたから。

イ ぶつかりそうになつたのにもかかわらず、あやまらなかつたマコトの失礼な態度に腹が立つたから。

ウ 怒つていることをマコトに気づかれていたことが、はずかしかつたから。

エ 「ぼく」が怒つている理由をマコトがわかつていなことを知つて、あきれたから。



問五

——線⑤ 「ぼくだけ、ぼく一人だけ、面白く
なくて……悲しくて、寂しくて」とあります
が、「ぼく」がこんな気持ちになつたのはなぜ
ですか。次の□にあてはまることばを文中から
十五字で書きなさい。

マコトがクラスで「ぼく」にだけ転校の話を打ち明けてくれたことが、逆に「ぼく」を不安にさせ、□なのではないかと思うようになつていたから。

【一題目】次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

① その日、ママは日が暮れても帰つてこなかつた。

ぼくは宿題を終えると庭に出た。テレビもマンガも、つまらない。なにをやってもつまらない。ワンの小屋の前にしゃがみこんで、ヒュウッ、ヒュウッ、とくちぶえを吹いた。そうでなくともくちぶえはヘタなのに、特に調子が悪い。すぐにかすれて、しぶんでしまう。

だめだよ、ツヨシ、もっと勢いよく吹かないと――。

マコトの声がよみがえる。

ワンワンワンワンツ、とワンも思い出の中で励ますように吠えた。

パパが会社から帰つてきた。家の中に戻ろうかと思つたけど、なんだかそれも面倒くさくて、しゃがんだままでいたら、^②パパはガレージから直接庭に回つて、「やつぱり、ここにいたのか」と笑つた。「ママ、まだ帰つてこないんだよね……なにやって

15

10

5

「いろいろ忙しいんだよ、今日は」
パパはやつぱり、ママの外出の理由を知つてゐるだ。
「ママなんだよ」

それを訊く前に、パパはぼくと並んでワンの小屋の前にしゃがみこんで、「^③ワンが死んでいちばん悲しかつたのはママなんだよ」と言つた。

「パパやツヨシはときどき散歩に連れて行くだけだつたけど、ママはずーっと、ワンが子犬だつた頃からおじいちゃんになるまで、いちばんそばにいたんだもんな

「でも……犬小屋、もういらないつて
「うん、言つてたなあ」

「ほんとうにワンのことが好きだつたら、そんなこと言わないんじやないの？ 犬小屋がなくなつたら、ワンのことも思いだせなくなつちゃうじやない」
パパはうなずきながら笑つて、「でもな」と言つた。
「犬小屋がどんどん汚れて、ボロボロになつていくのを見るのつて、つらいだろ」

35

30

25

20

「それは、まあ……そうだけど……」

「たとえ犬小屋がなくなつても、ワンのことはいつでも思いだせるんだ。ママも、パパも、ツヨシも」
だつてそうだろう、とパパは人差し指で犬小屋を指して、それからその指を自分の胸にぴたつと当てた。

40 45

「思い出つていうのは、ここにあるんだ。犬小屋がなくなつても、この家からいつか引っ越しちやつても、ワンはずつと、みんなのここにいるんだよ」

ツン、ツン、ツン、と人差し指で自分の胸をつついて、「ママはそれをツヨシに教えたかつたんじやないのかな」と笑う。

そして、もつとにつこり笑つて、もう一言――。
「ワンのことだけじゃなくて、さ」

思わず「え?」と聞き返したぼくに、パパはつづけて言つた。

「パパはヒロカズにはもう会えないけど、あいつは、ずっと、ここにいるんだ。パパの胸の中で、わんぱく子どもの頃のまま、笑つてる」

50

「うん……」

「マコトくんだつて同じだよ。ここにいるんだ、これからも、ずーっと」

パパに胸を軽くつかれて、たまらなく恥ずかしくなつて、ダッシュで家の中に戻つたとき、ママが帰つてきた。

（重松清『くちばえ番長』）

*一ガレージ＝車をしまつておくところ。車庫。

*2ヒロカズ＝マコトの父親。「ぼく（ツヨシ）」の父親の小学校時代の親友。すでに病気で亡くなつている。

60

55

問一

——線①「その日、ママは日が暮れても帰つてこなかつた」とあります。家で一人で過ごしていた「ぼく」の気持ちを表していることばを文中から五字で書きなさい。

問二

——「ぼく」がマコトのことばやワンの行動を空想しているひと続きの三文を文中からさがし、その初めと終わりの四字を書きなさい。

- 問三
- 線②「パパはガレージから直接庭に回つて」とあります。が、パパがこうしたのは、なぜだと考えられますか。次の□にあてはまることばを文中から七字で書きなさい。
- にいるのではないかと思つたから。
- ア 元気のない「ぼく」にいらいらする気持ち
 イ 元気のない「ぼく」をしかりたい気持ち
 ウ 元気のない「ぼく」を励ましたい気持ち
 エ 元気のない「ぼく」をからかう気持ち

問四

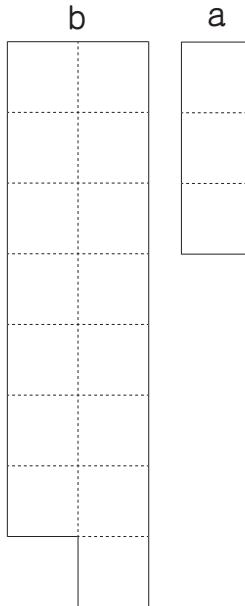
——線③「ワンが死んでいちばん悲しかつたのはママなんだよ」とありますが、パパがこのような話を「ぼく」にしたのは、どのような気持ちからですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- 小6 国語 応用 テキスト
- ©RECRUIT HOLDINGS
 本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
 また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五

——線④「それ」が指しているのはどんなことですか。次の□にあてはまることばを、aは三字、bは十五字で文中から書きぬきなさい。

思い出は、ずっと□aにあるので、犬小屋がなくなつたとしても、□bのだということ



問六

——線⑤「たまらなく恥ずかしくなつて、ダッシュで家の中に戻つた」とあります。このとき、「ぼく」が恥ずかくなつた理由として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア ワンやマコトのこと、ずっと落ちこんでいる自分が情けなかつたから。

イ 「ぼく」の胸の中に、マコトはずつといふんだと言われて、うれしかつたから。

ウ 「ぼく」がマコトを好きなことを、パパに気づかれているとわかつたから。

エ パパのことばや動作が、しばいがかつていて、照れくさかつたから。



第七講 ● 説明的文章③

◆段落

段落とは、一つの意味を作っている、いくつかの文のひとまとまりのことです。前後の段落との関係や、それぞれの段落が文章全体の中でどんな役割を持っているかを考えましょう。段落には次の二つがあります。

(1) **形式段落**……改行が行われるまでのひとまとまりの文章を形式段落といいます。形式段落ごとに、その中心となる文を見つけ、要点をまとめましょう。

(2) **意味段落**……内容のひとまとまりからみた文章のひと区切りを意味段落といいます。意味段落のほとんどは、いくつかの形式段落が集まっています。

◆文章構成のとらえ方

説明文の場合、文章は序論（問題提起）、本論（説明）、結論（まとめ）からなっている場合が多く、その展開の順序によつて、文章構成は大きく次の三つの型に分類できます。意味段落が、序論、本論、結論のどれにあたるか、どのような順序で展開されているかを考えて、文章構成をとらえましょう。

(1) **尾括型**……序論→本論→結論という展開で、最も多い型です。

(2) **頭括型**……結論→本論→結論という展開で、結論が来ます。

(3) **双括型**……結論→本論→結論という展開で、結論が最初と最後にある場合をいいます。



一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① みなさんは、海の水が増える、ということがど

んなことだか考えたことがあるでしょか。たとえば海の水が増えて海面が一メートル上がつたとしましよう。すると、日本でいえば、日本全体が一メートルしずむのと同じことです。世界中の陸地全体が一メートル低くなるのです。

② 南太平洋にツバルという、総面積二六平方キロ、人口一万人足らずの小さな国があります。テレビで見た人もあるでしょう。この国は、いくつかの小さくて平べったい島からできていて、多くはサンゴ礁の島々です。海はきれいで、島にはヤシの木が茂り、熱帯の楽園のようなどころです。そこで人々は、漁業と観光で生活しています。

③ でも、島のいちばん高いところでも海面から約四メートル、つまり二階建ての建物より低いのです。このように土地が低いために、これから海の

水が増えてくると、これらの島には住めなくなってしまう、つまり国がなくなってしまうのでは、と恐れられているのです。

④ 問題はツバルだけにはかぎりません。太平洋やインド洋には似たようなサンゴ礁の島がたくさんあります。また、バングラデシュでは、海面が一メートル上がつただけで、国の水田の半分がなくなってしまうといわれています。

⑤ 日本でも、海岸沿いに、東京や大阪などの大都市や、工場地帯がひろがっています。一メートル海面が上がると、満潮時に海面より低いところに住むことになってしまふ人は四〇〇万人をこえるのです。

⑥ また、世界でも、米国のニューヨークなど、海岸沿いに大都市がある国が多いのです。中国で最大の都市である上海も、海面が一メートル上がつただけで、市街地の三分の一が水につかってしまいます。

⑦ 海の水が増える原因は地球が温暖化することです。このように土地が低いために、これから海の

す。温暖化すると、南極や北極の陸地の上にある雪や氷が溶けて、海の水が増えます。

【8】南極のまわりや北極海に浮いている氷山も溶けます。しかし、コップに水と氷を入れて溶かしてみればわかるように、氷が溶けて水の中に沈んでいた氷の体積と

同じなので、水面の高さは変わりません。つまり氷山が溶けても、海水面が高くなるわけではありません。

【9】では、なぜ、どうやって、二酸化炭素のせいです

地球が温暖化するのでしょうか。

【10】花や野菜を作る温室は、屋根がガラスや透明なビニールになっていて、太陽のエネルギーを温室の中に取りこむのですが、一方、ガラスやビニールが温室から外へ逃げようとする温まつた空気をとじこめてしまうので、温室の中の温度が上がるしくみです。

【11】地球の場合には、二酸化炭素というガスと水蒸気が温室のガラスやビニールの役目をして、太陽

から来たエネルギーによつて地球にできた熱を閉じこめています。こうして、地球の温度が上

がります。

【12】やかんやなべがだんだん冷えていくのと同じように、地球からも、どんどん熱が逃げていります。□、このときに、二酸化炭素と水蒸気が地表から逃げていく熱（赤外線）を吸收したり、吸収した熱をふたたび放出して地表にもどすのです。

【13】こうしてみると、温室のビニールやガラスは、温まつた空気と冷たい空気がまざるのをふせいでいるのですから、この地球に起こっていることは、厳密にいえばちがう現象です。しかし、熱の逃げるのをふせぐという意味で、^③ 地球温暖化はよく、温室にたとえられるのです。

【14】いま、地球全体の二酸化炭素が増えています。工場や、発電所や、自動車からはき出されている二酸化炭素は年々、増えつづけています。

（島村英紀『地球環境のしくみ』）

問一

——線①「海の水が増える」とあります
が、海の水が増えるのはなぜですか。次の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

こと

によって、

が

溶けて水になり、海に流れ出すから。

問二 ——線②「南太平洋にツバルという……小さ
な国があります」とありますが、ツバル以外で、
海の水が増えることによつて深刻な影響を受け
る国や地域について、具体的に説明している段
落は何段落から何段落までですか。段落番号で
答えなさい。

段落

段落

問三

——□にあてはまることばとして最も適当な
ものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア だから イ そのうえ
ウ でも エ なぜなら

問四

——線③「地球温暖化はよく、温室にたとえ
られる」とありますが、地球温暖化を温室にた
とえるとき、二酸化炭素は次のどれにあたりま
すか。最も適当なものを次のうちから選び、記
号で答えなさい。

- ア 温室の中の花や野菜
イ 温室のガラスやビニール
ウ 太陽のエネルギー
エ 太陽のエネルギーによって地球にできた熱



問五

この文章を、内容のうえから次のように二つの意味段落に分けるとすると、後半はどこからになりますか。後半の初めの段落を段落番号で答えなさい。

前半：海の水が増えることによる影響と、海の

水が増える原因

後半：二酸化炭素による地球の温暖化



段落

問六

この文章の内容と合っているものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 海の水が増えて海面が一メートル上がったとしても、世界中の陸地のすべてが一メートル低くなるわけではない。

イ ニューヨークや上海は海岸沿いの都市だが、海の水が増えても街にあまり影響はない。

ウ 花や野菜を作る温室のしくみは、地球が温暖化するしくみとまったく同じである。

エ 地球の温暖化の原因である二酸化炭素の増加は、人間の活動と関係がある。



第八講 ● 説明的文章④

一題目 次の文章を読んで、あととの問いに答えなさい。

い。

調査の結果、地球の平均気温はこの一〇〇年間で約〇・六℃上がったことがわかつた。この

あとの一〇〇年間では、高ければ六℃も上がると予測されている。

1 じつは、六℃もあがると、たいへんなことになります。毎日の気温ならば、上がった日があれば下がる日もあります。また暑い夏、とか寒い冬、があつても、何年かのうちに平均的な気温になります。

2 しかし、地球温暖化による気温の上昇は、平均的な気温そのものが上がっていくので、影響がずっと大きいのです。つまり、気温が上がったままになつて、動物や植物が生きていく環境を変え

てしまうからです。

3 もちろん、暑かつたり寒かつたり、というばらつきは、これからもつづきます。しかし、地球全体の平均気温が数度上がるとなると、いろいろなところに大きな影響が出できます。

4 前にお話ししたように、二酸化炭素などの温室効果ガスは地表から逃げていく熱を上空で吸収したり、放出して、地表にもどします。

5 そうすると、まず、地表の温度が上がり、地表の近くの空気が暖められて軽くなり、^②*上昇気流が強くなります。海水の温度も上がり、蒸発する水の量も増えます。

6 すると、^{*}低気圧が大型になつたり、強い台風がたくさん生まれるので、低気圧も台風も、空気の上昇気流が作つたものです。そして生まれた強い台風は、海流とともに、赤道付近の熱を、赤道



から温帶へ運びます。

【7】これまでだつたら、たとえば日本付近に近づい

た台風は、やがて弱まっていつて温帶低気圧にな

り、さらに弱くなつて消えていくのが普通でした。

【8】これは、台風のエネルギー源は暖かい海水から

出る水蒸気をふくむ上昇気流ですから、海水の温

度が低くなるにつれて台風が弱まっていくからな

のです。また、台風が上陸したあと、急速に弱ま

るのは、水蒸気が上がらなくなることと、陸地と

*⁴まさつ
の摩擦のためです。

【9】しかし、温帶での海水の温度が高いと、台風が

強いまま、陸地を襲うことになるのです。

【10】エルニーニョ現象というのを聞いたことがありますか。これは太平洋の中央部を流れている海流

の異変で、この現象が起きると、日本の近くの台

風が増えるだけではなく、世界の広い範囲で気候

が変わつたり、魚の数や種類が変わつたりするのです。いままでもときどき起きていましたか、地球が温暖化すれば、もっと増えるといわれていま

す。

【11】また、海水の温度が上がると、海からの水の蒸

発量が増えます。これによつて、いまままで

では、雨がさらに増えることになります。多雨地

域といわれるところほど大雨が降ることになる

し、豪雪地域といわれる雪の多いところほど降雪

量は増えるでしょう。そして、海水が増えて土地

が低くなるでしょうから、洪水などの水害がいま

まで以上に増えることになるのです。

【12】一方、砂漠のようく、温度がもともと高いこ

ろでは、もつと温度が高くなることによつて、水

分の蒸発が進んで乾き、さらに砂漠がひろがつて

いくことになるのです。つまり、世界で、雨の多

いところと少ないところの不公平がいまより増え

るのです。

【13】雨の量がえたところでも、減つたところでも、農業に影響します。水不足だともちろん農業の生産量は減りますし、洪水によつても減ります。

【14】そして、温帶ばかりではなく、もっと緯度が高

いところへも、同じように熱帯の熱が運ばれやすくなります。このことによつて、温度が上がって陸にある氷河が溶け、海の水が増えていくのです。これが地球が温暖化していく影響なのです。

65

(島村英紀『地球環境のしくみ』)

*1 上昇気流 = 上空に上つていく空気の流れ。雨や雪の

原因となる。

*2 低気圧 = 周りに比べて、大気の圧力が低いところ。

中心付近では雨が降ることが多い。

*3 温帯低気圧 = 温帯地方でできた低気圧。台風が温帯

地方に入り、力が弱くなつたときなど

にいう。

*4 摩擦 = 二つのものがすれ合つて、その動きが弱まる

こと。

*5 豪雪地域 = 非常にたくさんの中雪が降る地域。

問一 この文章を、序論（問題提起）、本論（説明）、

結論（まとめ）の三つの意味段落に分けたものとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|
| ア | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| イ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| ウ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| エ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| イ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| ウ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| エ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |

問二 線①「二酸化炭素などの温室効果ガスは地表から逃げていく熱を上空で吸収したり、放出して、地表にもどします」とあります。この結果起きている現象は何とよばれていますか。文中から五字のことばを書きぬきなさい。

問三 —— 線②「上昇気流が強くなります」とあります、上昇気流によって発生するものを二つ、文中からそれぞれ三字以内で書きぬきなさい。

問四 —— 線③「日本付近に近づいた台風は……さらに弱くなつて消えていく」とあります、地球の平均気温が数度上がると、台風はどのような状態で日本に上陸することになりますか。そのことが説明されている一文を文中からさがし、その初めの五字を書きぬきなさい。

問六

この文章の内容と合つているものを次のうちから二つ選び、記号で答えなさい。

ア 地球の平均気温が数度上がると、毎日の気温のばらつきはなくなる。

イ 地球の平均気温が数度上がると、強い台風が今よりもたくさん発生するようになる。

ウ 地球の平均気温が数度上がると、動物や植物が生きていく環境が変わり、漁業や農業に影響する。

エ 地球の平均気温が数度上がると、海水の温度も上がって蒸発する水の量が増えるため、世界中で雨がさらに増える。

問五

□にあてはまるごとばを答えなさい。

【一題目】次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【1】世界の各地の気温が上ると、まず、それぞれの場所で育つことができる植物がちがってきます。

たとえば日本でいえば、寒い北海道よりも、暖かい九州の方が、一般に、植物の発育がよいので、

温暖化するの、悪いことではないと思うかもしません。しかし、そうではないのです。現在は、

その土地の気温に適した、たくさんの動物や植物が、おたがいに助け合いながら、バランスよく育つているのです。これが生態系というものです。

【3】それが、急に温度が変わると、生態系がくずれてしまい、大半の植物や動物は、減ってしまいます。ごく一部の、もつと高い温度をほしがつて、いた植物や動物だけが、増えることになります。

【4】たとえば気温が二℃上がるることは、その土地が一五〇キロから五五〇キロほど、赤道のほうにずれたのと同じことになるといわれています。また、

山地ならば、一五〇メートルから五五〇メートルもふもとのほうに下がったことになります。植物は育つのに適した気温のほうに、だんだん移住していくのですが、成長が遅い植物では、この気温の移動に追いつかないことがあります。つまり、その植物は枯れて、その場所では絶えてしまうのです。

【5】生態系が変わると、特定の植物しか食べない動物や昆虫は、生きのびられないかもしれません。

たとえば、蝶の多くは幼虫が食べる食草というものがきまつていて、それ以外は食べません。本州の里山に住むギフチヨウという美しい蝶は、近ごろは数が減つて心配されていますが、この幼虫はカンアオイという草の葉しか食べません。

【6】漁業はずいぶん変わります。プランクトンの種類や量が変わり、寒流の魚はずいぶんと減ることでしょう。農業も、作物の種類や収穫量がずいぶん変わります。これまでとれていた米がとれなくなつてしまふ地域が出てくるでしょう。

7

また、気候が変わることによつて病害虫が発生しやすくなります。これも、農作物の生産を減らしてしまいます。

8

つまり、温暖化によつて、ごく一部の場所では、農業生産が増えるでしょうが、ほかの大部分では、農業生産が減ります。つまり、地球全体の食糧生産が減つてしまふと考えられて いるのです。

9

動物たちの餌にも影響が出るでしょう。餌が不足して、ニワトリやウシ・ブタを飼いにくくなるかもしれません。また、乳牛はもともと夏は食欲がなくなり、牛乳を出す量が減るので、地球温暖化が進むと、肉や乳製品の値段も上がることでしょう。

10

そのほか、気温が上がることによつて、川や海から蒸発する水分が増えます。そして、川や湖の水の量が減つたり、水の温度が上がることもあつて、水質が悪くなつたり、*微生物が増えて、湖や池の富栄養化が進みます。いまでも、あちこちの湖や池に、アオコのような緑色の藻が増えて、魚

50

45

40

11

などの生物が減ることがあるのを聞いたことがあります。②あれが富栄養化なのです。

12

それだけではありません。地球が温暖化すると伝染病も増えるのではないかと心配されて います。伝染病はもともと熱帯地方に多い病気です。温帯地方にひろがる伝染病もありますが、熱帯地方の伝染病のほうがずっと多いのです。

13

温暖化とは、熱帯地方がひろがることですから、熱帯の伝染病が、それまでなかつた地域にひろがる心配があります。なかでも、蚊が伝染をひろめる感染症のマラリアはおそろしい病気で、いま、世界各地で増えて います。

(島村英紀『地球環境のしくみ』)

物。

*微生物=けんび鏡でなければ見えないような小さな生

70

65

60

55

問一

この文章を次の□内の四つの意味段落に分けるとしたら、どうなりますか。最も適当なものをあとから選び、記号で答えなさい。

エ ウ イ ア

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13		
4	5	6	7	8	9	10	11	12	13			
5	6	7	8	9	10	11	12	13				
6	7	8	9	10	11	12	13					
7	8	9	10	11	12	13						
8	9	10	11	12	13							
9	10	11	12	13								
10	11	12	13									
11	12	13										
12	13											
13												

- 第一段落 溫暖化すると、生態系が変わる。
- 第二段落 溫暖化すると、漁業や農業、らく農に影響が出る。
- 第三段落 溫暖化すると、湖や池の富栄養化が進む。
- 第四段落 溫暖化すると、伝染病や感染症が増える。

問二

④段落の役割を述べたものとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア ③段落の説明にあてはまらない具体例を示している。

イ ③段落の内容について、さらにくわしく説明している。

ウ ③段落の内容について、筆者独自の考えを示している。

エ ③段落とは別の新しい話題を示している。

問二 線①「蝶の多くは幼虫が食べる食草というものがきまつていて」とあります。ギフチョウの幼虫が食べる食草は何ですか。

問四

⑨段落について説明したものとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 筆者の意見や感想を述べている段落
 イ すでに起こったことを、事実として示している段落

いる段落

ウ 事実に基づいて、今後考えられることを予測している段落

いる段落

エ 現在考えられていることが正しいかどうか、疑問を投げかけている段落



問五

——線②「あれ」が指している内容を文中から三十二字でさがし、その初めと終わりの四字を書きぬきなさい。

↓

問六

□にあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア つまり
 イ それとも
 ウ ところが
 エ 一方



問七

——線③「地球が温暖化すると伝染病も増えるのではないかと心配されています」とあります
 が、それはなぜですか。次の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

温暖化によつて、伝染病の多い

から。

第九講 ● 文學的文章(5)



◆心情の変化をとらえる

人間の気持ちは常に変化しています。物語文は人間をえがくものですから、読み取りの際に、心情の変化を追うことがとても大切になってしまいます。

(1) 場面の展開・状況の変化をおさえる

まずは、時間の経過にともなって場面がどのように動いて、登場人物の心情に変化をもたらすきっかけとなつたできごと（人物どうしのやりとりや登場人物に対して起きた事件など）が起きたのかをおさえましょう。

(2) 場面の展開ごとの人物の心情をおさえる

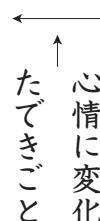
心情を直接表したことば、情景、人物の言動などから、場面の展開ごとの人物の心情を考えます。

(3) 心情の変化を考える

(1)・(2)をふまえて、登場人物の気持ちの大きさ

な流れと、その変わり目に何があつたかを考えます。

・最初的心情



・変化したあとの心情

物語文を読むときには、この手順に従つて、登場人物の心情の流れと、その変わり目にどんなことが起つたかをとらえながら読み進めることが大切です。

一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学校二年生の信雄の家は、大阪の安治川沿いで食堂をやっていた。あるとき、信雄は、川のほとりで舟を家がわりにして住んでいる同じ年齢の喜一とその姉銀子と仲良くなつた。信雄の父晋平は、子供たちを天神祭りに連れていくことになつたが、祭りの当日、信雄の母が急に病気になり、晋平は行けなくなつた。

信雄と喜一は仕方なく自分たちだけで、近くにある淨正橋の天神さんに行くことにした。

「あんまり遅うまで遊んでたらあかんでエ」

晋平は信雄と喜一の手に、数枚の硬貨を握らせた。

「銀子ちゃんは行けへんのん？」

信雄が二階に声をかけると、

「うん、うち行けへん」

しばらくして銀子の言葉が返ってきた。

①二人は夕暮の道を駆け出した。

近くといつても、信雄の家から淨正橋までは歩いて三十分钟もかかる距離であった。堂島川のほとりを上つていき、堂島大橋を渡つて北へ歩いていくうちに、お囃子の音が大きく聞こえてきた。

大通りを曲がり、仕舞屋が軒を連ねる筋に入る

と、陽の沈むのを待ちあぐねた子供たちが、道にうずくまつてもう花火に火をつけている。酒臭いはつぴ姿の男が、同じ柄のはっぴを着た幼な子を肩に乗せて、ぶらりぶらりと神社に向かつている。そのあとを喜一と並んで歩きながら、にわかに大きくなつねりだした祭り囃子に耳を傾けていると、信雄はなにやら急に心細くなつてきた。

「僕、お金持つて遊びに行くのん、初めてや」

ときどき立ち停まると、喜一はそのたびに掌を開いて、晋平からもらつた硬貨の数を確かめた。信雄は自分の金をそつくり喜一の掌に移した。

「僕のんと合わしたら、何でも買えるで」

「そやなあ、あれ買えるかも知れへんなあ」

信雄も喜一も、火薬を詰めて飛ばすロケットのお

もちやが欲しかったのである。恵比須神社の縁日でも売つていたから、きっと今夜も売つてある筈であつた。

天満宮の

てんまんぐう
巨大的な祭りではなかつたが、それ

でも商店街のはずれから境内への道まで露店がひし

めきあつてゐる。人通りも多くなり、スルメを焼く

匂いと、露店の莫蘿の上で白い光を発してゐるカーバイドの悪臭が、暗くなり始めた道にたちこめて、

④ 信雄も喜一もだんだん祭り気分にうかれていつた。

喜一は硬貨をポケットにしまい、信雄の手を握つた。

「はぐれたらあかんで」

人混みを縫いながら、二人は露店を一軒一軒見て歩いた。

水飴屋の前に立つたとき、

「一杯だけ買つて、半分ずつ飲めへんか？」

と喜一が誘つた。ロケットを買ってからにしようという信雄の言葉でしぶしぶその場を離れたが、こんなことは焼きイカ屋の前でも同じことをせびつた。飲

45

40

35

30

み物や食べ物を売る店の前に来ると、喜一は必ず信雄の肘を引つぱつて誘うのだった。

「きつちゃん、ロケット欲しいことないんか？」

喜一の手を振りほどくと、信雄は怒つたように

言つた。

「ロケットも欲しいけど、僕、いろんなもん食べて

みたいわ」

⑤ 口をとがらせて、喜一は脛の虫さこれのあとを強く搔きむしつた。

（宮本輝『泥の河』）

*一お囃子=祭りをもりあげるための笛やたいこの音楽。

*2仕舞屋=商売をしていない住宅。

*3露店=出店。

*4カーバイドの悪臭=明かりとして燃やすカーバイド

のいやなにおい。

55

50

問一

——線①「二人は夕暮の道を駆け出した」とあります。このときの二人の気持ちとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 暗くなると心配なので、早く行こうとあせる気持ち

イ 銀子が行かないきびしさをふり切ろうとする気持ち

ウ 早くお祭りに行つて遊びたいと思う気持ち

エ 暗い家から早く逃げ出したいという気持ち



問二

——線②「僕、お金持つて遊びに行くのん、初めてや」とあります。このときの喜一の気持ちの説明として適当でないものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 遊びに行くのが楽しくてときどきしている。

イ 少し大人になつたような気がして得意になつてている。

ウ お金をなくしあはしないかと少し不安を感じている。

エ もらつたお金をどうしていいかわからずとまどつてている。



問三

——線③「信雄は自分の金をそつくり喜一の掌に移した」とあります。このことで喜一の気持ちはどうなりましたか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の使えるお金が増えたので喜んだ。
イ 自分の責任が重くなつたようで気持ちがしずんでいた。

ウ 買い物をすることがますます楽しみになつてきたり。

エ 信雄の行動の意図がわからず不安になつた。



問四

——線④について、次の問いに答えなさい。

- (1) 「だんだん祭り気分にうかれていた」とあります。信雄はその前は、どんな気分だったのですか。文中のことばを使って答えなさい。



(2)

二人を「だんだん祭り気分」にさせていつたまわりの様子やことがらを次のうちから四つ選び、記号で答えなさい。

ア スルメを焼く匂い

イ ひしめきあつている露店

ウ 商店街のにぎわい

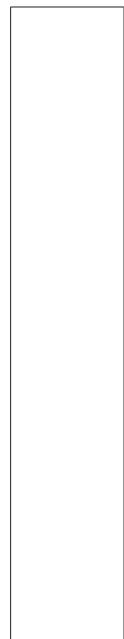
エ 前を歩くはつぴ姿の親子

オ カーバイドの悪臭

カ 掌の中の硬貨

キ ロケットのおもちゃ

ク 人通りの多さ



問五

——線⑤「口をとがらせて、喜一は脛の虫さ
それがあとを強く搔きむしめた」という表現か
ら、喜一のどんな様子がわかりますか。最も適
当なものを次のうちから選び、記号で答えなさ
い。

ア 信雄がいじわるをしていると思い、悲しん
でいる。

イ ロケットにこだわる信雄が正しいと、あき
らめている。

ウ 信雄がおこつたので、おどろいている。

エ 自分の意見が通らないので、不満に思つて
いる。



第十講 ● 文学的文章(6)

一題目 次の文章を読んで、あととの間に答へなさい。

天神祭りに行つた信雄と喜一は、もはつたこづかいをいっしょにしてロケットのおもちゃを買おうと考へた。が、二人分のお金があずかつた喜一は飲み物や食べ物をほしがり、信雄と言ひ争う。

いつのまにか空はすつかり暗くなり、商店街に吊るされたちようちんにも裸電球にも灯が入つて、急激に増してきた人の群れがその下で押し合いへし合ひしている。

「きつちゃん、きつちゃん」

信雄の声は、子供たちの喚声や祭り囃子に消されてしまつた。喜一は小走りで先へ先へと進んでいく。相当狼狽して信雄を捜しているふうであつた。信雄は大人たちの膝元をかきわけ、必死で走つた。何人かの足を踏み、ときどき怒声を浴びて突き飛ばされたりした。境内の手前にある風鈴屋の前でやつと喜一に追いついた。赤や青の短冊が一齊に震え始め、

なつた。

信雄は慌てて引き返そうとした。色とりどりの浴衣や団扇や、汗や化粧の匂いが、大きな流れとなつて信雄を押し返す。やつとの思いで元の場所に戻つて来たが、喜一の姿はなかつた。信雄はぴょんぴょん跳びあがつてまわりを見渡した。いつのまにすれちがつたのか、人波にもまれている喜一の顔が、神社の入口のところで見え隠れしていた。

すねたふりをして一步も動こうとしない喜一を尻目に、^①信雄はひとり境内に向かつて歩きだした。歩き始めると、人波に押されて立ち停まることもできなくなつてしまつた。喜一の顔が遠ざかり見えなく



それと一緒に、何やら胸の底に突き立つてくるような冷たい風鈴の音に包みこまれた。信雄は喜一の肩を摑んだ。喜一は泣いていた。泣きながら何かわめいた。

「えつ、なに？ どないしたん？」

よく聞きとれなかつたので、信雄は喜一の口元に30

耳を寄せた。

「お金、あらへん。お金、落とした」

風鈴屋の屋台からこぼれ散る夥しい短冊の影が、

喜一の歪んだ顔に映つていた。

信雄と喜一はもう一度商店街の端まで行き、地面を睨みながらじぐじぐに歩いた。再び風鈴屋の前に戻つて来たが、落とした硬貨は一枚も見つかなかつた。喜一のズボンのポケットは、両方とも穴があいていた。

信雄が何を話しかけても、喜一は黙りこくつたままだつた。人波に乗つて二人は境内に流されて40

囃子を奏でていた。同じ旋律の執拗な繰り返しに酩酊した男たちは、裸の体から粘りつくような汗を絞り出している。数珠繋ぎに吊るされた裸電球が、だんじりのまわりでびりびり震えていた。

信雄は石段に腰をおろし、ちょうど目の前に佇んで誰かを待つているらしい浴衣姿の少女を見つめた。その少女の持つ廻り灯籠の中で、黒い屋形舟が廻つている。

鈍い破裂音が聞こえ、それと一緒に硝煙の匂いがたちこめた。信雄と喜一の前にプラスチック製の小さな口ケットが落ちてきた。境内の奥に、とりわけ子供たちの集まつている露店があり、おもちゃの口ケットが莫蘿に並べられていた。喜一が足元の口ケットをすばやく拾いあげ、信雄の手を引いてその露店の所まで走つた。

はちまき姿の男は莫蘿に座つたまま喜一の手から口ケットを受け取り、

「サンキュー、サンキュー、ご苦労さん」

一台のだんじりが置かれ、その中で数人の男がお

③ 信雄と喜一は顔を見合わせて笑つた。

(宮本輝
(みやもとてる)

『泥の河』
(どろのかわ)

* 1 喚声 || 興奮して出す大きな声。

* 2 狼狽 || あわてふためくこと。

* 3 怒声 || おこつて出すどなり声。

* 4 だんじり || 山車。

* 5 酗釈 || 酒にようこと。

* 6 硝煙 || 火薬が燃えて出るけむり。

問一 線① 「信雄はひとり境内に向かって歩き

だした」のはなぜですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 自分がひとりで先に行くふりをすれば、すねたふりをしている喜一もあきらめてついてくると思つたから。

イ すねたふりをしている喜一がにくらしく、もういっしょに行くのはいやだと思つたから。

ウ ロケットのおもちゃを売つている露店に早く行きたくて、喜一のことはあまり気にしていなかつたから。

エ 歩き始めるつもりはなかつたが、人波に押されるうちに立ちどまつていることができなくなつたから。



問二 18行目から28行目の間で、何かよくないことが起つたことを暗示している一文はどれですか。その文の初めの四字を書きなさい。

問三 —線②「人波に乗つて二人は境内に流れていった」とあります。このとき、二人はどんな気持ちになつていましたか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 信雄はお金落とした喜一に腹を立て、喜一は一人で責任を感じて悲しい気持ちになつていた。

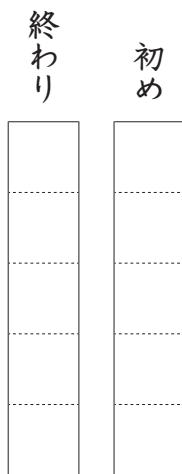
イ 二人とも、お祭り気分がふきとんで、お金をなくしたくやしさと情けなさで、重苦しい気持ちになつていた。

ウ 二人とも、お金をまったく持つていないことを心細く思い、早く家に帰りたいという気持ちになつていた。

エ 二人とも、境内のほうからもう一度さがして、落としたお金を見つけるんだと意気こむ気持ちになつていた。

問四

——線③「信雄と喜一は顔を見合わせて笑つた」とあります。そこから二人の気持ちが変化していることがわかります。その変化が起きる最初のきっかけになつたのは、どんなできごとですか。それが書かれているひと続きの二文をさがし、その初めと終わりの五字を書きぬきなさい。



一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

二人分のこづかいを落としてしまったこと
で、信雄と喜一は落ちこんでしまうが、破裂音
とともに二人の前に飛んできたロケットを見
て、再びお祭り気分をとりもどす。

「それ、なんぼ?」

「たった八十両、どや安いやろ」

①二人はまた顔を見合させた。二つも買えたうえ
に、焼きイカが食べられたではないか。

「さあ、もういつぺんやつて見せたるさかい、買う
ていけよ!」

危ないぞ、月まで飛んでいくロケットじゃあと
叫びながら、男は短い導火線に火をつけた。信雄も
喜一も慌てて二、三歩とびのくと、固唾を呑んで導
火線を見つめた。

大きな破裂音とともに、ロケットは斜めに飛びあ
がり、銀杏の木に当たつて賽銭箱の中に落ちた。慌
てばん

てて追いかけていく男の姿が、見物人の笑いをかつ
た。信雄も笑つた。笑いながら喜一の顔を見た。な
ぜかあらぬ方に視線を注いでいる喜一の目が、細く
すぼんでいた。

「ちえつ、あんなどこに落ちてしまったら、もう取ら
れへんがな」

走り戻つて来て、男は莫蘆の上にあぐらをかき、
ハツ当たりぎみに怒鳴つた。

「こら甲斐性なし! こんなおもちゃの一つや二
つ、よう買わんのんかい。ひやかしだけの奴はどこ
ぞに行きさせ」

「のぶちゃん、帰ろ」

喜一が信雄の肩をつつき、足早にだんじりの横を
すり抜けて行つた。

「早よ行こ、早よ行こ」

喜一は笑つて叫んだ。人の波はさらに増して、神
社の入口で渦を巻いている。

人混みを避けて露路の奥に駆け入ると、喜一は服
をたくしあげた。おもちゃのロケットがズボンと体

の間に挟み込まれていた。

「それ、どないしたん?」

「おっさんがロケット拾いに行きよった時、盗つた

んや。これ、のぶちゃんにやるわ」

信雄は驚いて喜一の傍から離れた。

「盗つたん?」

得意そうに頷いている喜一に向かって、信雄は思わず叫んだ。

③ 信雄の顔を、喜一は不思議そうに覗きこんだ。

「いらんのん?」

「いらん」

口汚なく怒鳴つていた香具師から、まんまとロケットを盗んできたことは、信雄にも少し□な

ことであつた。だが彼は心とはまったく裏腹な言葉

で喜一をなじつていた。喜一の手からロケットを奪い、足元に投げつけた。そして小走りで人混みの中

にわけいつていた。喜一はロケットを拾い、追いすがつて来て、また言つた。

50

45

40

35

「ほんまにいらんのん?」

自分でもはつとする程激しい言葉が、信雄の口を

ついてでた。

「泥棒、泥棒、泥棒」

人波をかきわけかきわけ、信雄はむきになつて歩いた。喜一の悲痛な声がうしろで聞こえた。

「ごめんな、ごめんな。もう盗んだりせえへん。のぶちゃん、僕もうこれから絶対物盗つたりせえへん。

そやから、そんなこと言わんとつてな。もうそんなこと、言わんとつてな」

振り払つても振り払つても、喜一は泣きながら信

雄にまとわりついて離れなかつた。二人は縋れ合いながら、少しずつ祭りの賑わいから離れていつた。

(宮本輝『泥の河』)

*一甲斐性なし||意気地のない人。

*2香具師||祭りや縁日など人出の多い所で、商品を売

*3裏腹||反対なこと。あべこべ。

60

55

問一

——線①「二人はまた顔を見合させた」とあります
ますが、このときの二人の気持ちとして最も
適当なものを次のうちから選び、記号で答えな
さい。

ア 思つたよりもロケットが安いので喜んでい
る。

イ お金をなくしたことを見出しそつとし
ていて。

ウ ロケット売りの熱心さに困りはてていて。

エ お金をなくしていなければ、とくやしがつ
ていて。



問二

——線②「喜一は笑つて叫んだ」とあります
が、喜一はなぜ笑つてているのですか。最も適当
なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 信雄が人波に流される様子がおかしかった
から。

イ うまくロケットのおもちゃを盗むことがで
きて、得意になつていてから。

ウ 口汚なく怒鳴つていたロケット売りの男に
仕返しができて、うれしかつたから。

エ ロケット売りが、自分で失敗したのに客に
ハツ当たりぎみにどなつたのがおかしかつた
から。



問三

——線③「信雄の顔を、喜一は不思議そうに覗きこんだ」とあります。その理由として適当でないものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア おもちゃの口ケツトを盗んだくらいで、どうして「泥棒」などと言わなければならぬのか、わからなかつたから。

イ 口汚なく怒鳴つて、口ケツト売りから口ケツトを盗んだことを、信雄が少しも喜んでくれなかつたから。

ウ 信雄がほしがつて、口ケツトをせつかく手に入れたのに、信雄はそれをほしがらないばかりか、「泥棒」と言つたから。

エ 自分が口ケツトを手に入れるために苦労したこと、信雄も知つて、はずなのに、一方的に非難されたから。



問四

□にあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 心配

イ 痛快

ウ 残念

エ 意外

問五

——線a/s/dのそれぞれの部分に表れた喜一の気持ちの移り変わりとして、最も適当なもの

を次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 緊張 → 得意 → いら立ち → 悲しみ

イ 緊張 → 得意 → 不安 → 悲しみ

ウ 不安 → 安心 → 驚き → いら立ち → 後悔



第十一講・文学的文章⑦

◆筆者の気持ちをとらえる

隨筆文は、体験したり見聞きしたりしたことにもとづいて、考えたことや感じたことを、自由な形で書いたものです。

形式が自由なために、文章には筆者独特のものの見方・感じ方が表れやすく、また、表現にも独特のものが表れます。これらのことから、筆者の気持ちをうかがうことができます。

(1) 文章を書くきっかけとなつたことがらをとらえる

どんなことがらがもとになつて文章が書かれているかをおさえましょう。

(2) 心情を直接表す表現に注意する

「悲しい」「腹^{はら}が立つた」「うれしくなつた」「喜びがこみあげてきた」など、心情を直接表したことばや表現に注意しましょう。

情景や行動などの表現から気持ちを考える

気持ちを直接言っていなくても、情景や行動、そのほかさまざまごとががらの表現から、筆者の気持ちをうかがうことができます。

(3) 筆者のものの見方や考え方があれでいること

ばに注意する

「うれしい」「悲しい」などの心情だけではなく、筆者独特のものの見方や考え方がわかる部分にも注意しましょう。



一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学校六年生の時だつた。家庭科で調理実習の時間というのがあり、「目玉焼き」を習つた。五、六人のグループごとに、コンロが一つ、フライパンが一つ。ジャンケンか何かで順番を決め、一人ずつ挑戦する。残りの四、五人から見守られる中、手際よく焼きあげるのはなかなか難しい。モタモタして、るうちにフライパンから煙がもうもう上がり、自身がチリチリに焦げてしまつたり……。そのたびにぎやかな笑い声。うまくいけば拍手喝采。だんだん自分の番が近づいてくると、ドキドキする。

私は、小さい時から手先がほんとうに不器用で、この日は朝から憂鬱だつた。うまく焼けるだろうか、という以前の大問題——うまく割れるだろうか、という不安を胸に抱きつつ、登校した。

すき焼きなどで生卵を割るとき、私はよくぐちやつと黄味をつぶしてしまう。もちろん、すき焼

15

10

5

20

きなら支障はないのだが、目玉焼きの場合はちょっとまずい。ちょっとどころか、*致命的である。ぐちやつとなつたらどうしよう……そればかり気にしていたら、昨日は卵の夢を見てしまつた。

不幸なことに私のグループは人数がやや多く、最後の私がもじもじとフライパンの前に立つころには、他グループからの冷やかし組も集まつてきて、すごいギヤラリーになつてしまつた。

卵を割りそこねた子はまだいならしいことが、さらに*³プレッシャーをかける。すつかり舞いあがつてしまつた私。ええいとばかり卵をフライパンのふちに打ちつけ、そのままぐしゃつと握りつぶすような格好になつてしまつた。

わあつと湧きあがる声。こういう時、子どもは残酷である。ピーピーと口笛を吹く子もいれば、手を打つてはやす子もいる。その後どんな目玉焼きができあがつたのか全く覚えていない。見届ける前に私の目玉がうるんでしまつていて。

家に帰つてこの「事件」のことを母に話している

35

30

25

と、また涙なみだが出てくる。

「落ち着いてやれば何でもないことなのに、^②ばかね、ほら、やつてごらん」

笑いながらフライパンと卵を出してくる母。うわつもう見たくもないと思いながら、一緒にコンロ 40 の前に立つた。おそるおそる卵をフライパンのふちにぶつける。ペチッと殻からにひびが入るだけで割れなかつた。ペチッペチッペチッ……うーん。もどかしくなつていきなり力をこめた瞬間しゅんかん、ぐしゃつ——またやつてしまつた。流れだす黄味を、絶望的な思い 45 で見ている私に、明るく母が言う。

「さあ、おいしい炒り卵を作ろう」

フライ返しを菜箸さいばしに持ちかえさせられて、ほら、ほら、早くかきませて、と急かされる。

「このへんでおしょう油を入れると、いい香りがするのよ」

できたての、ほわほわの、炒り卵。——おいしかつた。負け惜おしみではなく、目玉焼きよりもずっと。なんだか元気が出てきて、もう一度やつてみようか

「フライパンを火にかけているとあせっちゃうから、まずお茶碗ちゃわんに割つてごらん」
不思議なほど、楽な気持ち。今度は、うまくいった。
「もしここで失敗したら、オムレツにしちゃえればいいの」
ありあわせのハムとミックスベジタブルを混ぜてその場で母が焼いてくれたオムレツ。これがまたおいしかつた。夢のように。
思えばあが、母と一緒に台所に立つて何かを習つた最初のことだつた。今でも生卵を割るときは、家庭科室での光景がふつと頭をよぎる。幼おさない心にうけた傷きずは深い。が、一方でこのできごとは、料理に興味を持つきっかけにもなつた。^③卵一個で母が見せてくれた魔法。

(俵万智)
『りんごの涙』

*—致命的—||ここでは、取り返しのつかない失敗。

*2.ギャラリー||見物人。

*3.プレッシャー||気持ちのうえでおしつけられること。

な、と思う。

問一 この文章を内容や時間のうえから大きく三つに分けるとすると、二つ目と三つ目のまとまりはどこから始まりますか。それぞれの初めの五字を書きぬきなさい。

問――線①「この日は朝から憂鬱だった」とあります。が、どのよつな気持ちがあつたから「私は憂鬱だったのですか。次の□にあてはまる」とばを、文中から十六字で書きぬきなさい。

調理実習で目玉焼きを作るときに、生卵を

1

問四

——線② 「ばかね、ほら、やつてごらん」とありますぐ、母はどのような気持ちでこう言ったのですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 失敗した理由がわからず、あきれる気持ち
イ そんなこともできないのかと、腹立たしいはらだ

気持ち

ウ むすめの悲しみを理解して、一緒に悲しむ
気持ち

工 だいじょうぶだと、むすめをはげま
す気持ち

1

問三　調理実習で目玉焼きを習った日に、「私」が

調理実習で目玉焼きを習つた日に、「私」が泣いたことが書かれている一文を文中から二つさがし、それぞれの初めの五字を書きぬきなさい。

問五

——線③「卵一個で母が見せてくれた魔法」とあります。どのようにことを「私」は「魔法」といっているのですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 生卵を割るのが苦手だった「私」に、生卵

を割ることを短時間で教えてくれたこと

イ 卵料理だけは失敗してもだいじょうぶだと
いうことを、「私」に楽しく教えてくれたこ

と

ウ 卵なんてもう見たくもないと思つていた

「私」に、料理に興味を持つきっかけを作つ
てくれたこと

エ 調理実習で失敗して傷ついたことなどたい

したことではないと、「私」に思わせてくれたこと

たこと



第十一講・文学的文章⑧

一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

青森県でりんごを栽培しているという女性と、ある会合で一緒にした。その日は東京にお泊りになるとのこと。宿がたまたま私の住んでいる町と同じ方向だったので、帰りも一緒に地下鉄に乗った。

自分のことを「りんご園のおかみ」とその人は言う。小柄で、どこか少女を思わせる二重まぶたの目。おつとりとした話し方なので、その「りんご園のおかみ」という言葉も、なにか素敵な絵本の中の言葉のように、ロマンチックに響いた。

今年は天候が不順で心配だというような話をしながら、ふとその人は何かを思いついたらしく、いたずらっぽい目で私を見る。

〔① そうだ、あなたに質問してみよう〕

「えつ、何ですか」
「りんごの花で布を染めると、どんな色になると思
います？」

本物のりんごの花を、私は見たことがない。写真
か何かで、たしか白っぽい花だったよう記憶して
いる。まるで根拠はないが、なんとなく淡いピンク
かなという気がして、そう答えた。

「うふふ、正解はこれ」

ハンドバッグの中から取り出された一枚の木綿の
ハンカチ。広げると、うすい黄色にうすいきみどり
色を混ぜてやわらかくしたような色だった。幼いこ
ろ、風邪をひくと必ず母が食べさせてくれた、すり
おろしたりんごの色にも似ている。そんな記憶もあ
いまつて、私はしばらく、うつとりとそのハンカチ
に見入ってしまった。りんごの浴びた陽ざしがハン
カチにも吸収されて、それが内側からやさしく光つ



て いるよ うな 感じ で ある。

「き れい で すねえ」

や や 間 の 抜けた タイミング で 私 が そ う 言う と、そ

の 人 は 嬉しそう に ほほえ んで、⁽⁴⁾ ま た き ち ん と た た み

な お す。そ の 手 つ き の や さ し さ は、りんご へ の 愛 情

を ご く 自 然 に 感 じ さ せ た。

「私 ね、こ れ、りんご の な み だ 色 つ て 呼 ん で いる の 」

「え つ、な み だ 色 ？」

「そ う。な み だ 色 」

そ の 時、は か り し れ な い 苦 労 が ち ちら り と、「りん

ご 園 の お か み」の 顔 を 横 ぎ つ た よ う に 思 わ れ た。花

の 咲 く よ ろ こ び、收 穫 の よ ろ こ び。け れ ど そ こ に 至 ⁽⁵⁾

る ま で に は、数えき し れ な い 涙 ⁽⁶⁾ が 流 さ れ て い る —— そ

う い う 意 味 だ ろ う か、と 思 つ た。が、そ う い う 意 味

で す か、と は 聞 け な か つ た。具 体 的 に、ど う い う 涙 で

す か、と も 問 え な か つ た。そ れ を 表 面 に 出 さ な い と

こ ろ が、そ の 女 性 の 魅 力 ⁽⁵⁾ の よ う に 思 わ れ た か ら。そ

う い う 涙 は 木 綿 に しつ か り 吸 わ せ て、美 し い ハンカチ に し て、ハ ン ド バ ッ グ に し の ば せ て お く。⁽⁶⁾ 涙 の 意

味 は、決 定 し て 言 葉 に は な ら な い だ ろ う。

私 に は、な み だ 色 の ハンカチ が あ る だ ろ う か、と ど

ふ と 思 つ た。

り んご の 花 の 咲 く 季 節 に は、ま だ 遠 い。

(俵 万 智 『り んご の 涙』)

* 一 ロ マン チ ッ ク || 現 実 的 な 世 界 を は な れ て い て、う つ

ど と し て る よ う な 美 し い 様 子。空 想 的。

* 2 根 拠 || も ど に な る 理 由。

* 3 あ い ま つ て || た が い に 作 用 し 合 つ て。

問一

——線①「そうだ、あなたに質問してみよう」とあります。が、「りんご園のおかみ」はどのようない方でこのことばを言つたと考へられますか。最も適當なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 「しんけんな質問をしますね」と、改まつた言い方

イ 「ためになる質問をしますね」と、自信たっぷりな言い方

ウ 「正解がわかるかしら」と、ちやめつ気たつぱりな言い方

エ 「たいした質問ではないけれど」と、えんりょする言い方



問二

——線②「りんごの花で布を染めると、どんな色になると思います?」とあります。が、「りんご園のおかみ」はこの質問の答えとして「私」に何を見せましたか。文中から十字で書きぬきなさい。

問三

——線③「うすい黄色にうすいきみどり色を混ぜてやわらかくしたような色」とあります。が、このハンカチの色について「私がやたらにくわしく説明している一文を文中から二つさがし、それぞれの初めの五字を書きぬきなさい。

問四

——線④ 「またきちんとたたみなおす」とあります。この様子を見ていた「私」は、「りんご園のおかみ」から何を感じ取りましたか。文中から七字で書きぬきなさい。

問五

——線⑤ 「そういう意味」が指し示している内容を次のようにまとめました。□にあてはまるごとばを、Aは九字、Bは十四字で文中から書きぬきなさい。

りんごの花が咲くよろこびやりんごを収穫するよろこびを感じるまでには□Aがあり、□Bという意味

A

問六

——線⑥ 「涙の意味は、決して言葉にはならないだろう」を言いかえたものとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 涙の意味は本人にもよくわからないだろう。

イ 涙の意味を他人に説明することはないだろう。

ウ 涙の意味を説明しようとしても、つらくて言えないだろう。

エ 涙の意味は単純たんじゅんではなく、言葉では表現しきれないだろう。

B

問七

「りんご園のおかみ」が言つたことばのうち、「私」にとつてもつとも印象的だつたものを文
中から八字でさがし、書きぬきなさい。

一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 四万十川で漁をして暮らしているおじさんに話を聞いた。舟の上で、日本最後といわれる清流に浮かびながら。

「柴づけ漁」というその漁法は、実際に素朴なものである。柴をたばねたものを川に沈め、一週間から十日たつたところでひきあげる。すると、そこに住みついた川エビやウナギがとれるというしくみだ。「住む」というのがミソで、だから囲いをしなくとも逃げられることはない。時間とともに獲物が増えてゆくことはあっても、決して減りはない。

柴は、おじさんが山で刈つてくるという。「だから、半分は山の仕事」だそうだ。川エビとウナギでは住まいの好みが違うらしく、ウナギのほうは葉っぱを多くしてやらないとダメ、とのこと。そのあたりは、長年の経験がものをいう。

② 目の前で私のために、ウナギをさばいてくれた。

自然に川に棲息しているウナギは、とてもスマートだ。まず、²キリのようなもので首のあたりをトンとついて、まな板の上に固定する。スーツと背中から包丁を入れ、ひらく。⁴肝をとつて骨をとつてできあがり。三等分にしたものを、その場でかば焼にしてもらつた。舟の上に、ちゃんとコンロが積んであるのだ。私はふだん、魚をさばく時には、なんとなく背中のあたりがすーすーしてしまう。³活け造りの魚の目玉なども気になつてしまふほうである。

が、おじさんがウナギをさばいてゆく一部始終を見ていて、そんな感じは全くなかつた。むしろ「美しいな」と思つた。ほんとうにおいしくいただいた。「ただ、ちょっとかわいそうな気もしますね……」私がそう言つたとき、ぴつと一瞬、おじさんの顔がこわばつた。

「それはしかたのないことじやろ。人間に食べられるが、こいつらの運命よ」

終始なごやかな笑顔で話してくれていたので、厳しい表情が、逆に鮮やかに印象に残つてゐる。まこ

と安易に言つてしまつた「かわいそう」を、後悔した。ふだん、自分が魚をさばいたり、活け造りの目玉を見たりして思う「気持ち悪い」という感覚も、同じ安易さからきているのではないかと思つた。

⑥おじさんにさばかれるウナギは、ちつとも気持ち悪くない。その違いは何だろう。

その違いは、魚とのつながり方ではないかと思う。同じ自然の中で生きているものとして、おじさんと魚はつながつていて。都市で生活している私たちは、自然から離れた位置にあって、魚と関わりをもつ。だからいとも簡単に「かわいそう」と言えるし、無責任に「気持ち悪い」と感じてしまう。

⑦おじさんは漁をしながら、魚たちにどんな気持ちを抱いているのだろう。「かわいそう」ではなくて……。

「ごちそうさま」と言いながらさりげなく聞いてみた。しばらくの沈黙ののちに返ってきた答えは、「アリガトウ」だつた。

(俵万智)
『りんごの涙』

50

45

40

*一素朴||ここでは、しくみが単純なこと。

*2棲息||生物が生きて、住んでいること。

*3キリ||材木などに小さな穴を開ける、先のとがつた

道具。

*4肝||かん臓。

*5安易||深く考へることのない、気軽な様子。

問一 線①「四万十川」が水のきれいな川であることを表している十一字の表現を文中から書きぬきなさい。

問二 線②「ウナギをさばいてくれた」とありますが、おじさんがウナギをさばく様子を、「私はどう感じましたか。文中から四字で書きぬきなさい。

問三 線③「活け造りの魚の目玉なども気になつてしまふ」とは、どういうことを表していますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

始め	終わり

ア 魚の目玉について目がいつてしまうということ
イ 魚の目玉を気持ち悪いと感じるということ
ウ 魚の目玉の色や形に興味があるということ
エ 魚が新せんかどうかを目玉で確認するということ

こと

問五 おじさんの表情が大きく変わったことを表している七字のことばを文中から書きぬきなさい。

問六 — 線⑤「安易に」と近い意味で使われていることばを、文中から二つ書きぬきなさい。

問七 — 線⑥「おじさんにさばかれるウナギは、ちつとも気持ち悪くない」とあります。私は、自分で魚をさばくときに魚を「気持ち悪い」と感じるのはなぜだと考えましたか。次の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

自然と離れて、都市で生活している自分は、
魚と直接
いなから。

問八 — 線⑦「おじさんは漁をしながら、魚たちにどんな気持ちを抱いているのだろう」とあります。

「私」のこの疑問にに対する答えとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア ほこらしい気持ち
イ 感謝の気持ち
ウ 申し訳ない気持ち
エ あきらめの気持ち

第十三講・説明的文章⑤

◆正確な読み

説明文を正確に読みこなすために、次のことに気をつけるようにしましょう。

(1) 話題をつかむ

何について述べようとしているのかを正しくつかみましょう。説明文は、説明している内容を読む人に分かってもらうために、話題（問題提起）がはつきりと書かれています。

(2) 事実と意見とを読み分ける

説明のための事例や事実の部分なのか、筆者の意見や考えを述べた部分なのかを考えながら読みましょう。

(3) 原因・理由・根拠をとらえる

ある物事や自分の考えを他人に分かってもらうためには、なぜそうなるのか、なぜそう考えるのであるのかという原因や理由を述べる必要がありま

す。そこで、文章を正確に読みこなすうえでは、「から」「ので」などの原因・理由を示すことばや、「だから」「なぜなら」などの接続語に注意して、筆者がどんな理由や根拠にもとづいて論を進めているかを考えながら読み進めることが大切です。また、これらのことばが使われていなくても、原因・理由→結果・結論の関係になっている場合があります。この場合、自分でこれらのことばをおぎなつて、その関係を確かめてみましょう。



【一題目】次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

【生まれたばかりの赤ん坊は、視力も運動能力も未発達ですが、聴覚だけはほぼ完全に発達しています。母親の胎内^{たいない}にいるときからすでに、胎児は母親の聞いている音を聞いているといわれるほどです。たとえば、母親がテレビを見れば、その音声に、胎児が反応しているといわれます。】

こうしたことを考えれば、耳からの教育は、生まれたときから行わなくてはならないことがわかります。

できるだけ早く、^{*}インプリンティングを始めなくてはいけません。ところが、ほかの能力が未発達のために、つい、聴覚もそうかと思^②い無頓着^{むとんちく}になり、しつかりとしたことばの教育^{きょういく}をしないまま、すこしてしまいがちです。

こどもにとつて、生まれてはじめてのことばは、

母親のことばです。もちろん、文字を教えても意味がありません。ただ、ことばを聞かせるだけでよい

のです。生まれたらなるべく早く、その日のうちに、母親の声を聞かせるのが望ましいといわれています。】

母親は、こどもにとつてはじめてのことばの先生です。その先生が、もしもことばをきちんと話さなければ、どうなるでしょうか。人間のことばの文化が、世代を超えて伝わらないことになってしまます。これは、たいへんなことです。

そして母親はことばを教えるのに適^きしています。

不思議なことに、古今東西を問わず、女性は男性にくらべてよくしゃべるといわれています。近ごろの説によれば、エストロゲンという女性ホルモンの影響^{きょうよう}で、女性は男性よりも言語能力がすぐれているのだそうです。つまり、自然の^{*2せつり}攝理によつて、こどもを産むことと、赤ん坊にことばを伝えていくことが、結びついているのです。

耳からことばを覚えていく赤ん坊にとつて、先生である母親のことばはとても大切です。こどもにこ

とばを刷り込むために、おかあさんは、とにかくたくさんしゃべらなければなりません。こどもは、それを何度も何度も、くりかえし聞いているうちに、やがて、すこしづつことばを覚えていくのです。

この、はじめのことばのことを、私は、「母乳語」と呼んでいます。赤ん坊が母乳だけで、体がどんどん成長していくのと同じように、子どもの内面は、母乳語だけで育っています。母乳が体の糧ながら、母乳語はこころの糧というわけです。母親のこどりだけで、こどものこころは、どんどん発達していくきます。

おだやかに、できれば、ほほえみを浮かべて話すこのなかでとくに注目したいのは、「A」ということです。というのも、母乳語はインプリンティングのことばだからです。どんなに優秀な子でも、はじめて聞いたことばを、一度や二度では覚えられません。何度も何度もくりかえし聞いているうちに、自然にことばがわかつてくるのです。これが、はじめのことばを習得する基本です。

このため、母乳語では、□B□という行為が、どうしても必要なのです。

(外山滋比古『わが子に伝える「絶対語感」』)

アメリカでは、生まれたばかりのこどもに話す母親のことばを、「マザーリーズ」といいます。マザーリーズとなることばは、次のような特徴をそなえていります。

- ・普通より、すこし高い調子の声で話す
- ・抑揚を大きくする
- ・くりかえし言う

動物によく見られる学習形態。

*1 インプリンティング || 親がやってみせ、子がまねするというのをくりかえすことで覚えていく、

*2 摂理 || この世のいろいろなことを支配している法則。

*3 抑揚 || 声やことばの調子を上げたり下げたりするこ

問一

——線①「耳からの教育は、生まれたときから行わなくてはならないことがわかります」とあります。筆者がこう述べるのは、どのような事実があるからですか。次の□にあてはまることばを文中から十四字で書きぬきなさい。

赤ん坊は生まれたばかりでも□いるという事実

問二 ——線②「ことばの教育」とありますが、「ことばの教育」をするとは、どうすることですか。次の□にあてはまることばを本文の「」で囲まれた部分から八字で書きぬきなさい。

ことともに□こと

問三

——線③「母親はことばを教えるのに適しています」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア こどもがはじめて耳にすることばは、母親のことばだから。

イ 母親はいつもこどものそばについていることができるから。

ウ こどもの内面は、母親のことばだけで発達していくから。

エ 女性の言語能力は男性よりもすぐれているから。

問四

——線④「この、はじめのことばのことを、私は、『母乳語』と呼んでいます」とあります、筆者は「母乳語」をどういうものだと考えていますか。次の□にあてはまることばを文中から七字で書きなさい。

母乳が赤ん坊の体を成長させるように、母乳

語は□を発達させていく。

問五

□A・Bに共通してあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 普通より、すこし高い調子の声で話す

イ 抑揚を大きくする

ウ くりかえし言う

エ おだやかに、できれば、ほほえみを浮かべて話す

問六

この文章は大きく三つの意味段落に分かれています。それぞれどのようなことについて述べていますか。次のうちから一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア こどもがことばを覚えていくうえでの母親のことばの大切さ

イ はじめのことばを習得するうえでの基本

ウ 生まれたばかりの赤ん坊に母親の声を聞かせることの重要性

第一段落

第二段落

第三段落

第十四講・説明的文章⑥

一題目 次の文章を読んで、あととの間に答へなさい。

ことばとは、一種の記号です。言い換へれば、ものごとをことばに結びつける約束が、ことばの体系をつくり上げてゐるのです。国によつて、その結びつきの約束が異なるために、日本の「水」が、英語圏では「ウォーター」、ドイツ語なら「ワツサー」、フランス語なら「オー」になるわけです。

母乳語は、まず、この結びつきの約束を覚えることから始まります。たとえば母親が、イスを見るた

びに「ワンワン」ということばを語りかけば、このもの脳には、ワンワンということばが刷り込まれます。そして、そのうちに、イスという動物と、ワンワンということばが結びつくようになります。これが、ことばを覚えるということです。

もちろん、一度や二度ではだめです。どうしても、刷り込みが必要なのです。ものを学び、覚えるために、くりかえすということは、もつとも大切な方法ですが、ことばも例外ではありません。

このようなやり方で、充分に母乳語を与えられた子は、ものごとを結びつきを自然な形で体得することができます。^①この過程に必要な期間は、およそ三十カ月。すくなくとも二年半程度は、母乳語の習得に時間をかける必要があります。

さて、人間のことばが、イスという動物をワンワンと結びつけるだけのものなら、ことばの習得はそれでおしまいということになります。(A)、人間にとつて、ことばとはそれほど単純なものではありません。自らをホモ・サピエンス(知恵ある人)と称する私たち人間は、母乳語とは別の、より高



度で複雑な、もうひとつのことばを身につけているのです。

母乳語が表すことができるものは、具体的なものごとに限られます。(B)、ことばは、ひとつひとつ、ものごとに、ぴったり結びつくようになると、いう約束が、母乳語の基本です。

これに対して、私たちのもつてているもうひとつのことばは、ものごととかならずしも一致いつちはしません。母乳語のように、目に見えたり、触さわったりすることのできる“何か”を指示示すのではなく、目に見えない、抽象的な“ものごと”を表すことばなのです。^②このとき、ことばは、ものとの関係が断たたち切られてます。母乳語で結びつけた、ものごとことばとの関係を、こんどは再び切り離はなさなくてはいけないわけです。

せつかく結びつけた、ものごとことばの間を切り離すのですから、こどもにとつては、じつにたいへんなことです。このため、母乳語について、ほとんどのこどもがうまく身につけられるのに対し

30

35

て、こちらの抽象的なことばについては、うまく習得できないこどもも、すくなくありません。この段

階かを、私はことばの「離乳期りにゅうき」と考えています。

母乳を飲んでいた子がやがて離乳するように、母乳語を与えられていたこどもは、やがて、抽象的なことばの使い方をする離乳語へ切り換わらなくてはなりません。もちろん、ことばの離乳は、実際の離乳と違ちがって、離乳したあとも、母乳語と離乳語の二つの種類の言語をともに使い続けるという特徴とくちょうがあります。具体的なものと結びついた母乳語と、抽象的なものを表す離乳語。この二つの言語の併用*へいようで、人間は高度な文化をつくりあげてきたわけです。

ところが、こうした二種類の言語を意識しながら、子育てをしている母親は、あまりいないのではないでしょうか。多くの場合、母乳語だけで子育てが終わってしまい、離乳語への移行が、きちんと行われていないうに思われます。^④あいまいなことばの教育は、やがて、こどもの言語能力の形成に、大きな影響えいきょうを及ぼすことになります。

45

40

45

55

50

*併用＝二つ以上のものをいつしょに用いること。
(外山滋比古『わが子に伝える「絶対語感」』)

問一　——線①「この過程」とありますが、どういう過程ですか。「～過程」につながる二十字以上二十五字以内のことばを文中から書きぬきなさい。

問

() A・Bにあてはまる「ことば」として最も
適当なものを次のうちから選び、記号で答えな
さい。

ア ウ けれども なぜなら
イ エ それとも つまり



問三 — 線②「母乳語で結びつけた、ものとことばとの関係」とあります。その結びつけ方を

具体例で説明しているのはどの段落(形式段落)ですか。その初めと終わりの四字を書きぬきなさい。

問四 — 線③「母乳語については、ほとんどのことものがうまく身につけられる」のは、母乳語が

どんなことばだからですか。「ことば」につながる二十五字以上三十字以内のことばを文中からさがし、その初めと終わりの四字を書きぬきなさい。

ことば

問五 — 線④「あいまいなことばの教育」とは、どんなことを指していますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア こどもに母乳語を教えても、離乳語はきちんと教えないこと

イ 母乳語と離乳語の二種類の言語があることを教えないこと

ウ 抽象的なことばをこどもに教えること

エ 母乳語と離乳語をいっしょにこどもに教えること

問六

この文章では、「母乳語」と「離乳語」について説明されていますが、次のことがらは、(1)「母乳語」、(2)「離乳語」、(3)「母乳語」と「離乳語」の両方、のどれにあてはまりますか。それぞれ記号で答えなさい。

ア 習得するうえで、すくなくとも二年半程度の時間をかける必要があることばである。

イ 人間が高度な文化をつくりあげるために用いられてきたことばである。

ウ 表すことができるのは、具体的なものごとに限られることばである。

エ 目に見えない、抽象的な「ものごと」を表すことばである。

オ ほんどのこどもがうまく身につけられることばである。

カ ものとの関係が断ち切られていて、ものごととかならずしも一致しないことばである。

(3) (1)

(2)

一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

母乳語は、具体的なことばです。イヌといえば、本当のイヌ、あるいは、イヌの絵がなくてはいけません。イヌを見たことのない子に、イヌということばを教えることはできないのです。

これにたいして離乳語では、ことばはからずしも、ものごとと結びついていなくてもよいのです。そのものが実在していなくとも、あるかのように、ことばを使うことができるわけです。

①たとえば、イソップ寓話にある、オオカミ少年の話を例にあげてみましょう。

少年が、村人たちに、

「オオカミが来た」

と言ったとき、このことばは、事実とは結びついていませんでした。つまり、ウソだったのです。村人は、このことばを本当だと思い、大騒ぎをしました。少年は何度もウソをつき、村人はそのたびにだ

まされました。これが何度もくりかえされると、村人はようやく、このことばが事実の裏づけのない、ウソだと悟るのです。

このオオカミ少年のことばが、離乳語のひとつです。つまり少年は、離乳語を悪用して、村人をおどろかせたのです。

このように、離乳語の特徴のひとつは、ウソがつけるということです。そんなふうに言うと、ウソなどつけなくともよいではないかという人も、いるかもしれません。けれども、ウソというのは、人間の文化のなかで、とても大切な役割をはたしているのです。

*² フィクション、創作、発見、発明など、人間が新たにつくりだすものはみな、ウソから生まれたマコトといつても過言ではありません。人間は、価値の

あるウソをつぎつぎとつくり出しながら、文化を築いてきました。ウソは他人の迷惑になることがあります。モラルとして抑制されて、いけないことになっていますが、一方で、人間がウソをつくこと

ができないければ、これまでのような文化は生まれなかつたかもしれません。これが、文化のむずかしいところでもあるのです。

こどもが母乳語から離乳語の段階^{だんかい}に入り、離乳語

の習得がすすんでくると、つくり話やホラ話を喜ぶようになります。だからといって、この時期^③に、正

40

直が大切だというのでいつさいウソを認めないようなしつけをしてしまうと、こどもの想像力が萎縮^{みくわいしゅく}してしまうおそれがあります。子育てをしている母親を見ていると、そのようなことが、しばしば起こっていることに気づかされます。

45

④ ウソは、人の迷惑にならない限りは、許容することも必要です。離乳語は、豊かなウソをつくり出しながら、想像力を広げ、頭のはたらきをよくする作用があるのです。母乳語と調和しながら離乳語が発達するこの時期は、こどもごころ、つまり三つ子の魂^{たま}が、つくりあげられる時期に重なります。はじめにことばありき、ということばは、三つ子の魂にもいえることなのです。

50

出すこと。

*3モラル^{モラル}＝道徳。人間として守らなければならない決まり。

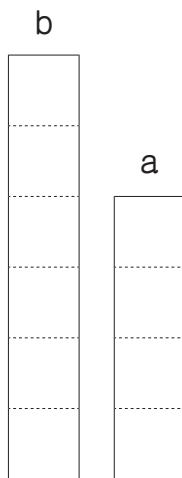
*4抑制^{イヒツ}＝物事の動きや勢いをおさえてとめること。
*5萎縮^{イシク}＝元気がなくなり、ちぢこまっておくびょうになってしまうこと。

（外山滋比古『わが子に伝える「絶対語感」』）

*1寓話^{ヨクワ}＝いろいろな教えをふくんだとえ話。
*2フィクション^{フィクション}＝想像によってことがらや話をつくり

問一

——線①「たとえば、イソップ寓話にある、オオカミ少年の話を例にあげてみましょ」とあります。『イソップ寓話』は、どういうことを述べるための例としてあげられているのですか。次の□a・bにあてはまることばを、aは四字、bは六字で文中から書きぬきなさい。



離乳語は、□aとかならずしも結びついていなくともよいので、□bという特徴があるということ

問二

——線②「文化のむずかしいところ」とあります。どういう点で「むずかしい」のですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 文化のレベルを高めるためには、より豊かなウソのつき方を子どもに教えなければならない点

イ ウソはいけないことになつていて、ウソをつくことができなければ文化も生まれない

という点

ウ 文化を生むためのウソと、人に迷惑をかけるウソの区別がつきにくいという点

エ じょうずなウソのつき方をどのようにしてこどもに教えるかという点

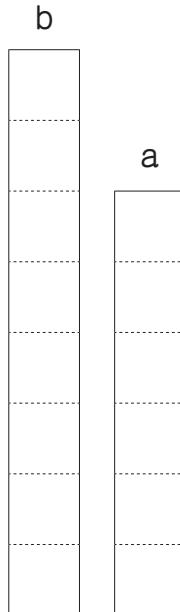


問三 ――線③「この時期」とあります。どうい

う時期ですか。次の□a・bにあてはまる

ことばを、aは六字、bは八字で文中から書き
ぬきなさい。

□aがすすみ、こどもが□bを喜ぶよう
になる時期

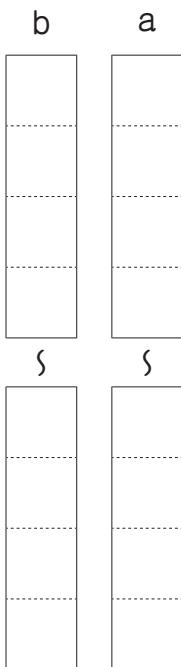


問四 ――線④「ウソは、人の迷惑にならない限り

は、許容することも必要です」と筆者が考える
のはなぜですか。次の□a・bにあてはま

ることばを、aは三十三字、bは十五字で文中
からさがし、それぞれその初めと終わりの四字
を書きぬきなさい。

離乳語には□aというはたらきがあるの
で、いつさいのウソを認めないようなしつけを
してしまって、□bおそれがあるから。



問五

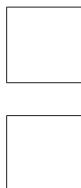
この文章の内容と合っているものを次のうちから二つ選び、記号で答えなさい。

ア ウソは文化を発展^{はってん}させていくために必要であつたが、これからはウソをつかなくてもよい社会になることが望まれている。

イ 人間は、価値のあるウソによつて文化を築いてきたのであり、ウソは人間の文化のなかでとても大切な役割をはたしている。

ウ 子育てをしている母親を見ていると、人の迷惑にならないようなウソをしばしば許容していることに気づかされる。

エ 母乳語と調和しながら離乳語が発達する時期は、こども「ころがつくりあげられる時期」でもある。



第十五講・文学的文章⑨

◆表現を味わう

読書とは、文章に書かれていることがらを読み取ることだけがすべてではありません。表現の一つ一つをとらえて味わうことによって、受ける印象がよりあざやかになつたり、想像が広がつたりして、読書が深まり、楽しいものになります。

たとえば、「ものさびしい雨が降つて いる。」と いう表現に対し、単に「雨が降つて いるんだ。」と思うのではなく、「雨がしとしと降つて いるんだ。」これを書いた人は、今さびしさを感じてい るのだろうか。何かあつたのかな。そういえば、 ぼくも雨の日にさびしい気持ちになつたことがあ るぞ。……」と いうように想像を広げられるよう になると、読書がより楽しくなつてきます。

(1) 表現の工夫くわうと効果を味わう

心情や情景を効果的にえがくために、さまざま

まな表現技法が用いられます。

また、ある表現がストーリーの上で重要な役割わりを果たしている場合もあるので、そういう表現にも目を配つて読むようにしましよう。

(2) 表現の特色から作品の雰囲気ふんいきを感じ取る

文末表現（「です・ます調」か「だ・である調」か、現在形か過去形か、など）や、一文の長さによって、作品の印象は変わります。そのような表現の特色にも注目して作品を味わいま しょう。



一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

午前中の授業は平穩^{へいおん}に過ぎ、給食の列に並ぼうとした時、「よお」と肩に手を掛けられた。福ちゃんが博士^{ひろし}を見ていた。

「ハカセはどつちだべ」と囁いた。その目がかなり暗く光っているのに博士は気づいた。

「どういう意味？」

「おれにつくのか、ナカタの仲間^{なかま}なのか」

「サンペイ君とは、友達だよ。サンペイ君は嘘つきじやないよ」

「どうして福ちゃんには分からぬのだろう。サン

ペイ君は本当はすごいのだ。それをみんなに分かってもらえばいいのに。

「そうか、わかった」

福ちゃんは A 席に戻^{もど}つていった。

でも、その時からの、福ちゃんの行動ときたら、あっさりしたもの、なんてもんじやなかつた。(ア)

クラス中をまとめて、博士とサンペイ君をのけ者にしたのだ。当時、博士は「村八分」という言葉を知らなかつたし、また「ハブる」という言葉もまだなかつた。だから、ただ、現象として、誰からも話しかけられず、こちらから話しかけても無視されるということだつた。

博士は学級委員長だつたから、よく前に立つて話をまとめたりしなければならず、そんな時には本当に困つた。だれも、手を挙げてくれなかつたり、指してもはぐらかされたり。(イ)

一度など博士は福ちゃんの机の前まで B 歩いていつて聞いてみた。

「ねえ、なんで、福ちゃんは、サンペイ君を目の敵^{かた}にするわけ？ 別に悪いことしたわけでもないし、おかしいよ」

すると福ちゃんはふんと鼻を鳴らして、「虫がすかん。理由はそれでいいべ」と言い捨てた。(ウ)

本当にただそれだけのことなのかもしけなかつた。でも、博士^{(1) まろやくせん}は突然^{さく}としなかつた。昔みたいにみん

5

25

10

35

など話したいという気持ちはあつたけれど、かど
いってこんな不合理なことを福ちゃんに言われたか
らといって従つている連中なんか軽蔑してやる、と
いうような気分もあつた。

必然的に、博士はいつもサンペイ君と一緒に40

サンペイ君の本棚は博士の本棚になり、逆に博士が

持つていた子供向けの科学読本をサンペイ君は喜ん

で読んだ。そして、天気がよければ必ず釣りをした。

博士もすぐに腕を上げて、*4 クチボソ相手ならサンペ

イ君との「先に五十四釣つた方が勝ち」マッチで勝

つことすらあつた。(工) 45

近場での小物釣りではそのうちに飽き足らなく
なつて、少し下流でコイの吸い込み釣りを始めた。
練り餌をつけた大きめの仕掛けで置き釣りにするか
ら、竿を立てて並べてしまふとあとは待つのみ。し
ばしば博士とサンペイ君はあくまで高い空の下で河

原に腰を下ろし、きらきらする水面の黄金色の照り
返しを見ているのだつた。

「釣りはいいなあ、本当に釣りはいい」とサンペイ

50

45

君はよく口にした。「ぼくもよくこうやって、青空の下でおじさんと釣りをしたものだよ。おじさんはね、高い空は人の気持ちを大きくするとよく言つていたよ」

*5漫然と話すサンペイ君の視線の先を、遠くジヤンボ機が飛んでいくのが見えて、たしかに博士も

〔川端裕人〕になつた。

『今ここにいるぼくらは』

*1ハカセ博士のこと。名前の読み方からこう呼ぶ

ている。

*2ナカタサンペイ君のこと。

*3恍然と疑いなどが消え、気持ちがさっぱりする様子。

*4クチボソ全長ハセンチメートル前後のコイ科の淡水魚。

*5漫然ぼんやりしている様子。

問一

次の段落は文中にあつたものです。もとにもどすとしたら、どこに入りますか。文中の（ア）～（エ）から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

以前だったら、博士はただ自信を失い、気持ちもボロボロになってしまっていたはずだ。転校したてで言葉を笑われていた頃もそうだった。でも、今回は違った。サンペイ君みたいに「気にしない」ことは出来ないにしても、とにかく自分がダメなんだとは思わずいられた。



問二

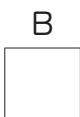
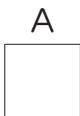
□A・Bにあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア のつそりと

ウ つかつかと

イ あつさりと

エ そわそわと



問三

――線①「博士は釈然としなかった」とあります、どんなことについて「釈然としなかった」のですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 福ちゃんが質問にきちんと答えられない理由

イ 福ちゃんがサンペイ君を目の敵にする理由

ウ 福ちゃんに言われたことにみんなが従つて いる理由

エ 福ちゃんが自分のことを無視する理由



問四

——線②「こんな不合理なことを福ちゃんに言わされたからといって従つている連中」とあります。『連中』は福ちゃんに従つてどんなことをしたのですか。文中から十五字で書きぬきなさい。

問五

C

にあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 複雑な気持ち イ 大きな気持ち
ウ 楽しい気持ち エ 腹はら立だたしい気持ち

--

- 博士はどのような人物としてえがかれていますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。
- ア 不合理なことに負けず、自分の思いをつらぬこうとする人物
イ 自分をごまかしても、みんなと仲よくしようとする人物
ウ つい余計なことを言つて、人の反感を買つてしまふ人物
エ 自分の考えが定まらず、気持ちがふらふらしている人物

--

問六

文中から、博士とサンペイ君の親密しんみつさが増し、博士がサンペイ君の家をしばしば訪ねるようになつたことが読み取れる一文をさがし、その初めの七字を書きぬきなさい。

問七

博士はどのような人物としてえがかれていますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 不合理なことに負けず、自分の思いをつらぬこうとする人物

イ 自分をごまかしても、みんなと仲よくしようとする人物

ウ つい余計なことを言つて、人の反感を買つてしまふ人物

エ 自分の考えが定まらず、気持ちがふらふらしている人物

第十六講・文学的文章⑩

一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

新しい学級委員長の小林さんは、博士ひろしとサンペイ君サンペイがのけ者にされていると学活で訴うたえたが、サンペイ君はそれを否定ひていした。放課後、福ちゃんはサンペイ君に真意を問いつめたが、きみとはかかわりたくないのだと言われる。福ちゃんはその場を立ち去るが、博士はその後を追いかけた。

「サンペイ君はすごいんだ。福ちゃんが仲良くしてくれたら、みんなサンペイ君のこと、よく分かると思うのに。本当にすごいし、おもしろいんだから。福ちゃんが言っていた、ほら話だつて、本当に本当なんだから」

「本当だつたら、すごいのか。おれらには関係のな

い話だべ。あいつも、あいつのおじさんも、勝手に月でも火星かきょうでも行けばいいべ」

博士には福ちゃんがなんで、そんなにサンペイ君を目の敵かのじにするのか分からなかつた。先生だつて夢ゆめを見るることはいいことだつて言うじやないか。サンペイ君が大きなことを言つたりするのつて、そんなに悪いことなんだろうか。

「福ちゃん、おかしいよ。福ちゃんつてもつと分け隔へだてないんだと思つてた。でも、今はみんな福ちゃんが怖こわいんだよ。だから、ぼくたちに話しかけられない。福ちゃんはそんなんでいいの？」

福ちゃんがはつとした顔で、博士を見た。

「ハカセにそんなこと言われるとなあ……」と小さく呟つぶやいた。「おれ、頭、悪いし、おやじは家を継つづげつて言うし、たぶん高校出たらそうなるんだべさ。けど、ナカタは勉強すりやあ、一番になれるやつだ。



でも、やらん。それで、一人でスカしてる」

「福ちゃんは、クラスの人気者じゃないか。みんな福ちゃんが好きだし、いるだけでぱつと明るくなる。サンペイ君のこと、気にすることなんてないんだよ」

「そうだべか……」

福ちゃんは唇を噛んでいた。博士には分からなかつたけど、福ちゃんにとつては大きなことなんだというのが伝わってきた。

サンペイ君はもう帰つてしまつていて、博士はサンペイ君の家に向かつた。

離の部屋にはサンペイ君はいなかつた。たぶん川に行つたのだと思つて博士はいつものポイントに向かつた。はたして、サンペイ君は一人で釣り糸を垂れていた。

「やあ、ハカセ君」サンペイ君は後ろ向きのまま言った。

「福ちゃんと仲直りした方がいいと思うよ」博士はいきなり核心に切り込んだ。

「やつはぼくが気に入らないのだよ。瓢箪池のヌシ

40

35

30

25

のことだつて、やつは信じようとしないからね。こつちはおじさんが釣りかけて、糸を切られるのをこの目で見ているのだ。ヌシはぜつたいにいるのだ

「ぼくはクラスのみんなにサンペイ君のこと、もつと知つてほしいんだよ。こんなにすごいし、おもしろいのに、みんな全然知らないんだ」

「そんなことはいいのだよ、ハカセ君。ぼくたちは遠くにいくのだから、小さな教室にかかることはないのだ」

「でも、みんなと仲良くやれた方が、楽しいじやないか。サンペイ君はおかしい。なんか逃げてるみたいだ」

言つてしまつた後で、博士ははつとして口に手を当てた。

サンペイ君の肩が震えていた。水面の浮きにアタリが来ているのに、竿を動かそうともしない。

博士は話しかけられずに、じつと背中を見ていた。しばらくしてサンペイ君が大きく息を吸い込んだ。

③
背中を向けたまま、「ハカセ君、帰つてくれたま

60

55

50

45

「えよ」と威圧的に言つた。

博士はそのまま□家路についた。

(川端裕人『今ここにいるぼくらは』)

*一ポイント=地點。

*2核心=物事の中心となる部分。

*3威圧的=相手をおそれさせ、おさえつける様子。

ら選び、記号で答えなさい。

ア 福ちゃんがサンペイ君を目の敵にする理由
がどうしてもわからず、福ちゃんの態度を非
難する気持ち

イ サンペイ君の夢に對して福ちゃんがどう
思つているかがわからず、福ちゃんの考えを
知りたいと思う気持ち

ウ サンペイ君にだけ態度を変える福ちゃんが
本当はサンペイ君のことをどう思つているの
かをさぐろうという気持ち

エ 福ちゃんが必要以上にサンペイ君のことを
気にしているので、そんなに気にすることは
ないとはげます気持ち



問一

——線①「福ちゃん、おかしいよ。……福ちゃん

んはそんなんでいいの?」とあります。この

とき博士はどんな気持ちで福ちゃんにことばを
かけていますか。最も適当なものを次のうちか

ら選び、記号で答えなさい。

問二

——線②「福ちゃんは唇を噛んでいた」とあります。なぜ福ちゃんは「唇を噛ん」だのですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 自分を気づかう博士に負けた気がしてくやしかつたから。

イ サンペイ君を必要以上に意識していたことに気づいたから。

ウ 自分を気づかってくれる博士のやさしさがうれしかつたから。

エ サンペイ君を目の敵にするのはまちがいだとわかつたから。



問三

——線③「背中を向けたまま、『ハカセ君、帰つてくれたまえよ』と威圧的に言つた」ときのサンペイ君の気持ちとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 無神経な発言をされたことに対する激しくいかる気持ち

イ あまりにあたりまえのことを言う博士を軽く蔑する気持ち

ウ 痛いところをつかれた動ようをかくそと強がる気持ち

エ 博士の言つていることはまちがいだと強く反発する気持ち



問四

□にあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア とぼとぼと イ てくてくと
ウ どたどたと エ さばさばと



問五

この文章の表現の特色について述べたものとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 登場人物の行動を写実的な表現で冷静に追っている。
イ 会話を多用して登場人物の心の動きをえがき出している。
ウ 場面の情景が、効果的な比喩^{ひゆ}であざやかに映し出されている。
エ 短文の積み重ねで、スピード感あふれる展開^{かい}になっている。



二題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

博士は一人きりだつた。

相変わらずクラスのみんなとは話せなかつたし、サンペイ君も博士と視線が合うのを避けていた。だから、学校では一人きり。以前にもまして、たくさん本を読み、いろいろ考えたり、煮詰まつたり。ぼくがいるべき場所はここじゃない。そんな感覚がよみがえってきて、お腹の中をぐるぐると巡つていた。

5

それでも、なんとか耐えられた。一人でいることに耐えることつて、ひよつとするとサンペイ君が博士に教えてくれたちょっとした技術かもしけなかつた。博士は家の近くの川で釣りをすることを覚えたし、自家の水槽で*タナゴも飼い始めた。友達がいなくとも、本と釣り竿があればそれなりに満ち足りていられたのだ。

釣りつていい。辛いことを忘れられる。

15

10

冬だから寒くて、博士は鼻水をたっぷり垂らしながらも、川に出るのはやめなかつた。

博士はこんな日が、ずっと続くのを覚悟していた。中学ではさすがにそんなことないだろうけど、小学校の間はこのままなのだ。覚悟すれば、しつかりとした気分でいられた。

20

でも、変化というのはいつも突然だ。二月十四日、バレンタインデーの朝、いつものように登校して教科書を机に移そうとすると、中からごそりと小さな包みが二つ、三つ落ちた。

最初はなんのことか分からなかつたのだが、すぐに理解して博士は A。きっと耳たぶの先まで赤かつたに違いない。

チヨコレートなのだ。博士は自慢じゃないけれど、これまでもつたことがなかつた。それが今年に限つて、いくつももらえるなんて。机の中に手を入れてさぐつてみると、最初に落ちたやつだけではな

どうして釣りを始めたのか聞かれたら、たぶん博士はそう答えただろう。

く十個以上はありそうだつた。

紙の感触が指先にあつて、博士はそれを引つ張り出した。封筒だった。

〈大窪君と中田君はとてもがんばつてていると思います。そんけいします。女子のみんなからチヨコレートをくれります〉

視線を上げると、小林委員長がこつちを見て、リスみみたいな大きな前歯を出して笑つていた。

② そういうことだったのか。女子全員が博士のことを励ましてくれたのだった。

「今年は福ちゃんにはなしだつて。去年は十個以上

もらつただろ。シヨツク大きいぜ」

斜め後ろの男子が耳打ちしてきた。えつ？ と耳を疑つた。博士にわざわざ話しかけてきたのだ。福ちゃんを見ると確かにうなだれた感じだつたけど、それ以上に博士は B 、という事実に戸惑つた。

「あたしたちは仲間はずれをつくるような男子にはチヨコあげないからね！」小林委員長が大声で言うと、どつと笑いが起きた。

50

45

40

音を立てて組み替わる。その日から、誰も博士に話しかけるのをためらわなかつたし、福ちゃんも謝りこそしなかつたけれど、また以前のように博士を扱うようになった。

すべては元通りだつた。博士が、サンペイ君と親しくなる前とまつたく同じ。サンペイ君は、誰とも話をせず、授業中もただずつと窓の外を見ていた。博士はそのごわごわした後頭部を時々見ては、胸がチクリと痛んだ。

（川端裕人『今ここにいるぼくらは』）

*タナゴ＝フナに似た、コイ科の淡水魚。

60

55

問一

——線①「博士はこんな日が、ずっと続くのを覚悟していた」とあります、「こんな日」とは、博士がどんな状態でいる日のことですか。文中から四字で書きなさい。

問二

—— A においてはまるごとばとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 顔からさーっと血の気がひいた
 イ ほーっと大きく息をはいた
 ウ 顔がかーっと熱くなつた
 エ ヘーと心の底から感心した

問四

—— B においてはまるごとばとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 話しかけられた
 イ チヨコをもらつた
 ウ 謝られた
 エ 福ちゃんにチヨコがなかつた

問三

——線②「そういうことだつたのか」とあります、「仲間はずれ」「女子全員」「チヨコレート」ということばを使って説明しなさい。

問五

——線③「クラスを成り立たせている力学がコトリと小さな音を立てて組み替わる」とあります。どういうことですか。最も適当なもの

を次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 女子全員が福ちゃんをきらつたことで、だれも福ちゃんを相手にしないようになつたと

いうこと

イ 女子全員が認めしたことで、クラスの中心が

福ちゃんから博士とサンペイ君に変わつたと

いうこと

ウ 女子全員が抗議の意思を示したことで、みんなが福ちゃんに従わなくともいいようになつたと

いうこと

エ 女子全員が博士にチヨコをおくつたこと

で、みんなの注目が博士に集まるようになつたと



問六

——線④「胸がチクリと痛んだ」とあります
が、このときの博士の気持ちを原因もふくめて
かんたんに説明しなさい。

第十七講・詩

◇詩とは

詩とは、さまざまきざーとや自然の風景など、作者が見たことや感動したことを、短いことばで表現した文学です。

◇詩の重要な事項

① 詩の分類

○形式から

- ・定型詩：音数や行数に一定の決まりのあるも

の。

- ・自由詩：音数や行数に決まりのないもの。

○用語から

- ・口語詩：ふだん話をするときのことばで書かれたもの。

- ・文語詩：昔の文章のことばで書かれたもの。

○内容から

- ・叙情詩：作者の気持ちや感情をうたつたもの。

- ・叙事詩：景色や自然をうたつたもの。

- ・叙事詩：物語や事件のあらすじをうたつたもの。

の。

② 連について

形式と用語をあわせて「口語自由詩」「文語定型詩」などといいます。現代詩の多くは口語自由詩で、内容的には叙情詩です。

連について

何行かがひとまとまりになつて連を作ります。連は、ふつうの文章の段落だんらくにあたるもので、連と連の間は、ふつう一行あいています。

③ 表現技法

短いことばで感動を表現するために、さまざまな表現技法が用いられます。

○直喻ちよくゆ：「うようだ」などのことばを使ってたとえる。



例 もみじのような手

○ 隠喻いんゆ：「くようだ」などのことばを使わずに

たとえる。

例 海は地球のお母さん

○ 擬人法ぎじんぽう：人以外のものを人のように表現する。

例 風がわたしにささやいた

○ 対句法たいくふう：調子や内容が対になる句や行を並べる。

例 野に花がさく／山に若葉わかばが芽ぶく

○ 体言止め：文末を体言（名詞）で止めて、イメージを広げる。

例 寄せては返す波

○ 反復法：同じ語句をくり返す。

例 さあ旅立とう さあ旅立とう

○ 倒置法とうちほう：ことばの順序をふつうとは逆にし

て、強調する。

例 歩き続けよう 夢に向かって

○ 省略法：ことばを省いて余いんをもたせ、印象を強める。

例 なみだをこらえて――

○ 呼びかけ：呼びかけて、そのものに対する親しみを表現する。

例 おおい雲よ ぼくはここだよ

一題目 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

少年よ

田代しゅうじ
たじょう

ひとをうらむな
ひとの を 待つな

少年よ

ベンチでくちびるをかんでいる

君が好きだ

ベンチにひっこんでいても いつも
ボールにむかって 心はとびついて
君は三塁をまもつて

走り 捕球し 投げる

少年よ

明日にむかって
ボールを追え

少年よ

ボールが 君のグローブを とびだしたのは
おれのせいじゃない
グローブが悪かつたんだ なんていうより
くちびるをかめ
もつとくちびるをつよくかむがよい
いまにも

あふれそうな涙を ぐつとおさえて
くちびるをかんでいる

君が好きだ

少年よ

三塁は 君のものだ
エラーがかさなつて

ベンチにひっこまれたからといって

問一 この詩を用語、形式から分類すると、次のどちらにあたりますか。記号で答えなさい。

- ア 口語自由詩 イ 口語定型詩
ウ 文語自由詩 エ 文語定型詩

問四 作者は少年にどんなことを言おうとしているのですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 野球は集団競技なので、自分がうまくいかないからといって泣いたりせず、チームのことを第一に考えることが大切である。

イ 失敗したからといって落ちこんだりせず、失敗したことは早く忘れて、明日にむかって歩んでいくことが大切である。

ウ 失敗を認め、その責任を自分で引き受け、くじけずにがんばっていこうという心構えをもつことが大切である。

エ 人は失敗を重ねてこそ成長できるのだから、失敗したことをチャンスだと思って前進することが大切である。

問二 この詩は全部で何連からできていますか。

漢数字で答えなさい。

連

問三 □にあてはまることばを詩の中から二字で書きなさい。

一題目 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

空

菊池敏子

のどが渴きそうな 空の
まつさおな上機嫌に
感染してしまつたらし
わたしの いちにち

こんなにもほがらかな空の どこに
*一綻びがあるというのだろう

いそいで縫いにゆかなくては――

とてもいうふうに

①白い糸をつけた 銀の針のかたちして

ヒコーキが飛んでゆく

空は きょう

わたしに気づかせたかったのだ

*2シンプルな演出で

思いもかけぬよい光景を目撃させ

どれほどのあいだ

わたしがあくせく

空を忘れて過ごして いたか を

*一綻び=糸でぬった部分がほだけたところ。ほ

つれ。

*2シンプル=単純な様子。簡単。

ほ

問一 この詩はいくつの連（まとまり）からできていますか。漢数字で答えなさい。

連

問二 線①「白い糸」、②「銀の針」は、それぞれ何をたとえていると考えられますか。漢字で書きなさい。

② ①

問三 線③「のどが渴きそくな……感染してしまつたらしい」とあります。それまで作者はどうだったのですか。次の□にあてはまることばを詩の中から書きぬきなさい。

過ごしていた。

問四 この詩で使われている表現技法を次のうちからすべて選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|--------|-------|-------|
| ア 擬人法 | イ 倒置法 | ウ 反復法 |
| エ 体言止め | オ 対句法 | |

問五 この詩からわかる作者の思いを説明したものとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|----------------------------|-------------------------------|--------------------------------|
| ア いつもとちがつた空の様子を見て心配になつていて。 | イ 目を見はるようなきれいな空の様子を見ておどろいている。 | ウ 思いがけず気持ちのよい空の様子を見てうれしくなつていて。 |
|----------------------------|-------------------------------|--------------------------------|

- | |
|---------------------------------------|
| エ 何もなやみのなさうなすつきりした空の様子を見てうらやましく思つていて。 |
|---------------------------------------|

二題目 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

雑草

大関松三郎
おおせきまつやぶ

おれは雑草になりたくないな
だからもきらわれ
芽をだしてもすぐ□しまう
やつとなつぱのかげにかくれて
大きくなつたと思つても
ちょこつとこつそり咲かせた花がみつかれば
すぐ「こいつめ」と□しまう
だれからもきらわれ
だれからもにくまれ
*たいひの山につみこまれてくさつていく
おれはこんな雑草になりたくないな
しかしどこから種がとんでもくるんか
取つても取つても
よくもまあたえないものだ
かわいがられている野菜なんかより

14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

*たいひ=わらや落ち葉などを積み重ねてくさら
せたもの。肥料として使う。
よつぱど丈夫な根っこをはつて生えてくる雑草
強い雑草

17 16 15

問一

この詩を、用語と形式のうえから分類したものとしてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 文語定型詩 イ 口語定型詩
ウ 文語自由詩 エ 口語自由詩



問二

詩の中にある には同じことばが入ります。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア ひつこぬかれて イ 大切にされて
ウ ほつておかれて エ 笑われて



問三

線①「こんな」の指している部分はどこからどこまでですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- イ 前では雑草に対し悪い印象をもつていてが、あとでは雑草のしげとさに気づき、少し見直している。
ウ 前では雑草に対し良い印象をもつていてが、あとでは野菜と比べておとると批判する

問四

線②「しかし」より前とあとでは雑草に対する「おれ」の心情はどうに変化していますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 前でも雑草に対して悪い印象をもつていてが、あとではさらに悪い印象をもつようになつていて。



- ア 2行目から6行目まで
イ 2行目から9行目まで
ウ 4行目から6行目まで
エ 7行目から9行目まで



気持ちになつてゐる。

工 前では雑草に對して良い印象をもつてゐる
が、あとでは雑草をきらうようになつてゐる。

問五

——線③・④に使われてゐる表現技法を次の

うちからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|--------|-------|-------|
| ア 擬人法 | イ 直喻法 | ウ 倒置法 |
| 工 体言止め | オ 反復法 | |

③



④



第十八講・短歌・俳句

◇短歌とは

さまざまな思いや感動を五・七・五・七・七の五句三十一音で表現したものを短歌といいます。「三十一文字」ともいわれます。

◇短歌の重要な事項

① 形式

五(初句)・七(二句)・五(三句)・七(四句)・七(結句)の三十一音が基本の形式です。初めの五・七・五を「上の句」、あとの七・七を「下の句」といいます。

② 句切れ

一首(短歌の数え方)の中で意味が大きく切れるところを句切れといいます。切れる位置によって、「初句切れ」「二句切れ」「三句切れ」「四句切れ」「句切れなし」といいます。

③ 表現技法

○枕詞：特定のことばの上にそえて、ことばの調子を整えます。
や枕詞が使われます。

例 ひさかたの光のどけき春の日に
しづ心なく花のちるらむ

「ひさかたの」は「光」の枕詞

(枕詞の例) たらちねの→母(親)
あをによし→奈良

紀
友
則

例 街をゆき子供の傍を通る時
蜜柑の香せり／冬がまた来る
四句切れ

木下利玄



◇俳句とは

さまざまな思いや感動を五・七・五の三句十七音で表現したものを俳句といいます。世界で最も短い詩といわれています。

◇俳句の重要な事項

① 形式

五（初句）・七（二句）・五（結句）の十七音が基本の形式です。短歌・俳句ともに、基本の形式より音数が多いものを「字余り」、少ないものを「字足らず」といいます。

② 季語

俳句には、季語（季節を示すことば）を一つ入れるという決まりがあります。

例

春：菜の花・うぐいす・ひなあられ・入学

夏：あじさい・せみ・いちご・ブール

秋：コスモス・ばつた・柿・運動会

冬：さざんか・ふぐ・大根・スケート

③ 切れ字・句切れ

「ぞ・や・かな・けり」などを切れ字といい、感動の中心や句の切れ目を示します。

例 荒海あらうみや／佐渡さどに横（どう）たぶ天河あまのがわ

初句切れ

松尾芭蕉まつおばしょ

一題目 次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

A 海恋し潮の遠鳴りかぞへては

少女となりし父母の家

与謝野晶子

B 向日葵は金の油を身にあびて

ゆらりと高し日のちひささよ

前田夕暮

問一

Aの短歌に使われている表現技法を次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 擬人法
- イ 体言止め
- ウ 反復法
- エ 倒置法



問二

Aの短歌をよんだとき、作者はどこにいたと考えられますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 海岸
- イ 潮の遠鳴りが聞こえる所
- ウ 父母の家
- エ 故郷からはなれた所



問三

——線①「金の油」は何をたとえたものですか。



問四

——線②「ゆらりと高し」とありますが、ゆらりと高いものは何ですか。



一題目 次の俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

A 閑かさや岩にしみ入る蟬の声

柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺

松尾芭蕉

正岡子規

問一 A・Bの俳句の季語と季節を、それぞれ書きなさい。

なさい。

A 季語

B 季語

--	--

季節

--	--

問二 A・Bの俳句について説明したものとして最も適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 古都の静かなおもむきが感じられる。

イ 季節の移り変わりをうたっている。

ウ 二つの色の対照が印象的で美しい。

エ 音を表現することによって、静けさをきわ立たせている。

A

B

三題目

次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

A いつしかに春の名残となりにけり

昆布干場のたんぽぽの花

北原白秋

B 金色のちひさき鳥のかたちして

いてふ散るなり夕日の岡に

与謝野晶子

C たらちねの母が釣りたる青蚊帳を

*すがしといねつたるみたれども

長塚節

D くれなるの二尺伸びたる薔薇の芽の

針やはらかに春雨のふる

正岡子規

E ふるさとの訛なつかし

停車場の人ごみの中に

④*3 そを聴きにゆく

石川啄木

*1 青蚊帳 || 蚊にさされないように、つりさげて、
ねどこをおおうもの。

*2 すがしといねつ || すがすがしいと言つてねた。

*3 そ || それ。

問一

B・Cの短歌に共通して使われている表現技法として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 擬人法 イ 体言止め
ウ 倒置法 エ 反復法



問二 A～Eの短歌のうち、字余りの短歌を一つ選び、記号で答えなさい。

問五 Aの短歌でよまれている作者の心情として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 植物のたくましさにおどろき、感心している。

る。

イ 遠くはなれた故郷をなつかしんでいる。

ウ 春が来た喜びで心がはずんでいる。

エ 春が過ぎていくのをしみじみと感じている。

ことばを書きぬきなさい。

枕詞

枕詞がかかる
ことば

問四 Aの短歌は何句切れですか。

句切れ

問六

Bの短歌によまれている季節はいつですか。
最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 春 イ 夏
ウ 秋 エ 冬

問七 — 線①「金色のちひさき鳥」とあります。何をこのように表現したのですか。

問八 — 線②「たるみたれども」とあります。何がたるんでいるのですか。

問九 — 線③「やはらかに」とあります。薔薇の芽の針のほかにやわらかいものとしてこの短歌で歌われているものは何ですか。

問十 — 線④「そ」は何を指していますか。短歌の中から六字で書きぬきなさい。

四題目

次のA～Dの短歌は、斎藤茂吉の連作（連続して作られた作品）です。これを読んで、作られた順に記号を並べなさい。

A *みちのくの母のいのちを

一目見ん一目みんどぞただにいそげる

B のど赤き玄鳥ふたつ屋梁にいて

たらちねの母は死にたまふなり

C みちのくに病む母上にいささかの

胡瓜を送る障りあらすな

D 死に近き母にそひ寝のしんしんと

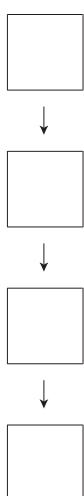
遠田のかはづ天に聞こゆる

*一みちのく||東北地方。作者の故郷は山形県。

*2玄鳥||つばめ。

*3屋梁||屋根の重みを支えるために、横にわたした

太い柱。



五題目 次の俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

A 名月や池をめぐりて夜もすがら *一よ

松尾芭蕉

B 菜の花や月は東に日は西に

与謝蕪村

C ちる芒寒くなるのが目にみゆる

小林一茶

D 朝顔につるべ取られてもらひ水

加賀千代女

*一夜もすがら ひとばん 一晩じゅう。
*2つるべ いど 井戸から水をくみ上げるおけ。

問一 A～Dの俳句の(1)季語と(2)季節を、それぞれ

書きなさい。

A (1)

B (1)

C (1)

D (1)

A (2)

B (2)

C (2)

D (2)

問二 Bの俳句がよまれた時間帯として最も適当な

ものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 日の出前 イ 日の出ごろ ウ 正午ごろ エ 夕方

問三 Aの俳句の中から、切れ字を書きなさい。

問四

A～Dの俳句の中から対句が使われているものを選び、記号で答えなさい。

- (1)
- (2)
- (3)
- (4)

問五 次のそれぞれの説明に合う俳句をA～Dから選び、それぞれ記号で答えなさい。

(1)

広々とした光景が絵のようにえがかれていて、黄色と赤の色の対比が印象的で美しい。

(2)

目の前の情景から季節の変化を感じ取っている。

(3)

日常のできごとをえがいた中に、植物に対するおもいやりが感じられる。

(4)

月の美しさに夢中になり、時のたつのも忘わすれてしまつたことがよまれていて。

問六

代を次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 平安時代
江戸時代
- イ 鎌倉時代
明治時代

第十九講・品詞①



ことばの単位

ことばの決まりを学ぶうえで、まず知つておかなければならないのは「ことばの単位」です。ことばを特定の単位で区切つて考えることが重要です。ことばの単位は、大きいほうから順に次の五つがあります。

- ① 文章…書き手の伝えたい内容をことばで表現したものの全体。話したことばの場合、談話・スピーチなどとります。
- ② 段落…文章を、内容の大きなまとまりごとに区切つたもの。段落には次の二つがあります。
- ・ 形式段落…段落の始まりは一字下げ、終わりは改行します。
- ・ 意味段落…いくつかの形式段落を、内容の上からまとめたもの。

③ 文…まとまつた内容を表すひと続きのことば。通常、終わりには「。」を付けます。

例 ぼくたちの家は、あの山のうらにあるので

す。…一つの文

④ 文節…意味がとれるはんいで最も小さく区切つた一区切り。文節の切れ目には、「サ」「ネ」

「ヨ」などのことばをはさむことができます。
例 ぼくたちの／家は、／あの／山の／
うらに／あるのです。

⑤ 単語…文節をさらに小さく区切つた、意味の

あることばとして成り立つ最小の単位。

例 ぼくたち／の／家／は、／あの／山／の／
うら／に／ある／の／です。

1 次の各文に斜線(／)を引いて、文節に区切りなさい。

(2)	(1)	(2)	(1)
に ど	見 今	は 何	歩 こ
来 う	つ 日	ず 年	き こ
な し	け こ	が た	ま に
か て	る そ	な つ	し 荷
つ あ	の は	い。 て	よ 物
た な	だ。 敵	も 忘	う。 を
の。 た	の の	わす	置 い
は 公	船 を	れ る	て
園			

2 次の各文に斜線(／)を引いて、単語に区切りなさい。

● 品詞とは

単語を性質によって分類したものを品詞といいます。品詞には次の十品詞があります。

名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・

接続詞・感動詞・助動詞・助詞

● 名詞

名詞は、ものごとの名前を表したり、指示示した
りする単語で、「は」や「が」が付いて主語になれ
ます。名詞はさらに次の五つに分類することができます。

① 普通名詞：ある種類のものごとをまとめて呼
ぶのに使う名詞。

例 花 学校 緑

② 固有名詞：ある一つのものごとに對してだけ
使う名詞。

例 二宮金次郎 富士山

③ 数詞：数や順序を表す名詞。

例 一台 二足 いくつ

④ 形式名詞：具体的な内容をもたず、必ず他の

單語に修飾される形で使われる名詞。

例 何もいいことがない。

⑤ 代名詞：名前を呼ぶ代わりに、指示示す名詞。

例 これ そこ あなた

● 動詞

動詞は、「どうする」や「ある／いる」などを表
す単語で、言い切りの形が一段の音で終わります。
また、あとに続くことばによつて形が変わります。
これを活用といいます。

例 走る ここでは走らない。

必死で走りました。

さつそうと走る。

速く走ることができません。
とにかく走ればいいのです。
どんどん走れ。

1 次の文中から名詞をさがし、すべて書きぬきなさい。

それは一匹の小さな虫だつた。日本海からの強い風を受けて、今にも飛ばされそうだ。よくこんなところにすんでいるものだ。

君には何度助けられたか分からない。
いつたいどつちに行けばいいのだろう。
ベートーベンのピアノ曲が流れている。
昨日、友達の家に遊びにいった。

(10) (9) (8) (7) (6) (5) (4)
ア 普通名詞 イ 固有名詞 ウ 数詞
エ 形式名詞 オ 代名詞

2 次の——線の名詞は、あとのどれにあたりますか。記号で答えなさい。

- (3) (2) (1)
寒いと思ったら、雪が降りだしたようだ。
気が付いたときに言つてください。
このクラスには三十人の生徒がいます。

(9)	(5)	(1)
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
(10)	(6)	(2)
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
(7)	(3)	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	
(8)	(4)	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	

3

次の文中から動詞をさがし、そのままの形ですべて書きぬきなさい。

ゆうべ、ぼくたちが勉強していたとき、いなず
まが光った。弟はあわてておなかに手を当ててお
へそをかくした。

4

次の——線部の動詞の言い切りの形を答えなさい。

(1) 早く服を着なさい。

(2) よく観察すれば気がつくはずだ。

(3) ふたを開けられないようにしよう。

(4) どこかがまちがつていませんか。

5

次の（ ）内の動詞を、文に合うように活用させて、ひらがなで書きなさい。

例 何が何でも（勝つ）たい。 → かち

(1) たくさんの中を（読む）だ。

(2) こまがなかなかうまく（回る）ないんだ。

(3) ライトを上に（向ける）ば、まぶしくない。

(4) もう何が（起きる）てもおどろかない。

(5) 宿題の話はだれかに（聞く）たかい。

6

だれかがこっちへ（来る）ようとしている。

(7) 向こうから馬車が（来る）ました。

第二十講・品詞②

●形容詞
けいようし

形容詞は、ものごとの性質や状態を表す単語で、言い切りの形が「い」で終わります。また、活用があります。（命令形はありません。）

例 明るい 明るかろうと暗かろうと構わない。

思つたより明るかつた。

急に明るくなりました。

窓の外は明るい。

外が明るいうちに帰つておいで。

明るければ明るいほどよい。

●形容動詞
けいようどうし

形容動詞は、ものごとの性質や状態を表す単語で、言い切りの形が「だ」または「です」で終わります。また、活用があります。（命令形はありません。）

例 元気だ 父と母は元気だろうか。

ずっと元気だつた。

元気でないときはありません。

今日も元気に走り回っています。

びっくりするほど元気だ。

元気な姿に安心する。

みんなが元気ならばそれでいい。



1 次の――線部の形容詞の言い切りの形を答えなさい。

(1) ひもがきつければ、ゆるめてください。

(2) それでまぶしくないかい。

(3) 一体どうするのが正しかったのか。

(4) 夢が大きいのはいいことだ。

2 次の□にひらがなを入れて、文を完成させなさい。

(1) このあたりは空気が悪い。

(2) 君が来てくれてうれしい。

(3) いつもこんなに楽しめばいいのにね。

たなあ。

(4) あなたほど強くなる人はいない。

なってきた。

なってきた。

なってきた。

なってきた。

(6)

(5)

(4)

(3)

(2)

(1)

母と別れて、さぞやさびしだんだんつら

う。

3

次の文中から形容詞をさがし、そのままの形ですべて書きぬきなさい。

少年は暖かい服がほしかったので、すばやく手に取りました。

4

次の——線部の形容動詞の言い切りの形を答えなさい。

(1) 波がおだやかなら、船を出そう。

(2) まじめな顔でじょうだんを言う。

(3) あのドレスはすてきだつたわね。

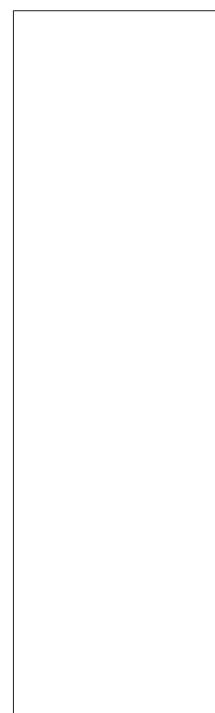
(4) いつまでも大切にしてください。

5 次の□にひらがなを入れて、文を完成させなさい。

- (1) それはちょっと大きさ
う。
- (2) 何だか変天氣だなあ。
- (3) この駅は映画に使われて有名
なりまし
- (4) 今いるところが安全
ば、そのまま
いなさい。
- (5) おじいさんは正直
たので、宝を返
しました。
- (6) この荷物を一人で運ぶのは大変
ぞ。
- (7) 子供のことが心配
たまらない。

6 次の文中から形容動詞をさがし、そのままの形ですべて書きぬきなさい。

大きな門が開くと、派手なトランペットの音が高らかに鳴りひびき、それまで静かだった広場は急にざわざわし始めました。



●副詞

副詞は、おもに動詞・形容詞・形容動詞を修飾する單語です。

例 さつと ついに もつと

副詞の中には、あとに必ず決まった言い方の来るものがあります。組み合わせを覚えておきましょう。

(呼応の副詞)

例 まるでお月様のよう・に・円い。

●連体詞

連体詞は、名詞を修飾する單語です。

例 ある どの 大きな

●接続詞

接続詞は、文と文、文節と文節などをつなぐ働きをする單語です。接続詞には次の七種類があります。

① 順接：前のことがらが原因・理由となることをあとで述べる。

例 だから したがつて すると

② 逆接：前のことがらとは反対のことをあとで

述べる。

例 しかし ところが けれども

③ 累加：前のことがらにあとのことがらを付け加える。

例 それに そのうえ しかも

④ 並立：前とあとのことがらを並べる。

例 および また

⑤ 対比・選択：前とあとのことがらを比べたり、どちらかを選んだりする。

例 あるいは または それとも

⑥ 説明：前のことがらについてあとで説明する。

例 つまり

⑦ 転換：話題を変える。

例 さて ところで

●感動詞

感動詞は、感動、呼びかけ、あいさつなどを表す

單語です。

例 おや おい こんなにちは

1 次の——線部の副詞が修飾している文節を書きなさい。

ぬきなさい。

(1) ご飯がすっかり終わってからゆっくり話そう。

□

(2) 今やらないと、より大変なことになりますよ。

□

(3) いつもやさしいおばさんが今日はおこつてい
る。

□

(4) とても急な坂道を登らないと行けません。

□

2 次の——線部に注意して、□にあてはまるひらがなを書きなさい。

(1) もし百点を取つ□、母はびっくりす
るだろうか。

□

(2) よもや忘れたわけではある□な。

□

(3) どうかお天気になります□。

□

(4) ケーキは、おそらく妹が食べたの□。

□

(5) なぜこんなところにいすがあるのです□。

□

3 次の□にあてはまる副詞をあとから選び、記号で答えなさい。

(1) このことは□だれにも言わないように。

(2) 花びらが□雪のように見えました。

(3) □見つかってしまっても、あわてるな。

(4) 来週の試合は、□見に来てください。

(5) こんな雨だから、□出発しないだろう。

(6) 危なつかしくて、□見ていられない。

4

次の文中から連体詞をすべて書きぬきなさい。

その日、いろんな人がピエロとおしゃべりをしたが、ピエロの小さな悲しみに気付いたのはわずか一人だった。

5 次の□にあてはまる接続詞をあとから選

び、記号で答えなさい。

(1) やりたくない。□できるはずがないからだ。

(2) 右手の骨^{ほね}を折った。□左足までねんざするとは。

(3) やつと終わつたね。□どうやつて帰るん

だい。

(4) 急いで行つた。□だれもいなかつた。

(5) ぼくの趣味^{しゅみ}は、自転車で遠出すること、
□サイクリングだ。

(6) おなかがすいた。□パンを食べた。

(7) 車で行こうか。□電車にしようか。

キ	オ	ウ	ア	つ
力	工	イ	イ	まり
と	そ	そ	け	そ
こ	の	の	れ	こ
ろ	う	う	ど	う
で	え	え	も	う

6

次の文中から感動詞を書きぬきなさい。

(1) もしもし、お父さんはいらっしゃいますか。

(2) はい、ぼくが班長はんちょうです。

(3) まあ、あなた一人でここに来たの。

(4) ねえ、君もいっしょに遊ばないかい。



第二十一講・品詞(3)

●助動詞

助動詞は、必ずほかの語に付いて意味をそえる單語で、活用があります。受け身・可能・断定・打ち消しなどさまざまな意味をそえます。

●せる・させる・使役

使役とは、自分がするのではなく、だれかに何かをさせることです。「せる」と「させる」は意味は同じですが、上に来る「こと」ばかりがちがいます。

例 ノートに字を書かせる。

馬に草を食べさせる。

●れる・られる・受け身・可能・自発・尊敬

「れる」と「られる」は意味は同じですが、上に来る「こと」ばかりがちがいます。どの意味で使われているのかに注意が必要です。

① 受け身：だれかに何かをされる。

例 ねこに魚を食べられる。

② 可能：することができる。

例 どうしても助けられなかつた。

③ 自発：自然にそうなる。

例 将来が思いやられる。

④ 尊敬：うやまいの気持ちを表す。

例 町長さんが話される。

※これと似ているものに、可能動詞があります。

可能動詞とは「飛べる」のように、一語で可能の意味をふくむ動詞です。可能動詞は、「飛ばナイ」のように、「ナイ」に続く形がア段の音で終わる動詞からだけ作ることができると動詞です。そこで、「見れる」のような可能動詞はありません。この場合は「見る+られる」で、「見られる」になります。



●らしい：推定

推定とは、確かにないことをおしはかることです。

例 今年の冬は暖かいらしい。

●う・よう：推量・意志・勧誘

「う」と「よう」は意味は同じですが、上に来る
ことばがちがいます。

① 推量：おしはかる。（「らしい」よりあいまい
です。）

例 たぶん雨が降るだろう。

② 意志：するつもりである。

例 明日はハンカチを忘れずにもつてこよう。

③ 勧誘：さそう。

例 いつしょにデパートに買い物に行こう。

●たい・たがる：希望

「たい」と「たがる」はどちらも希望を意味しますが、だれが希望するのかがちがいます。自分の希望には「たい」を、ほかの人の希望には「たがる」を使います。

例 ご飯が食べたい。

水を飲みたがつて いるようだ。

1 次の「～」に、「せる」または「させる」を文に合うように活用させて書き入れなさい。

- (1) 赤ん坊にミルクを飲ま～た。
- (2) この犬にぼうをとつてこ～ことはできますか。
- (3) のどが痛いときに、無理に歌わ～ないでください。
- (4) いつも人を笑わ～てばかりいる。
- (5) 自分で決め～てもいいだろう。

2 次の――線部の「れる」「られる」の表す意味をあとから選び、記号で答えなさい。

- (1) 先生が来られる前に、そうじを済ませておこう。
- (2) この図書館では、一度に五冊まで借りられまます。
- (3) その歌を聞くと、昔のことが思い出されてつらいのです。
- (4) おばあさんに道をたずねられた。
- ア 受け身
ウ 自発
イ 可能
エ 尊敬
-

〔3〕次のうち、□に「らしい」を入れられるものすべて選び、記号で答えなさい。

〔3〕明日こそは早起きしよう。

ア 明日は雨が降る□。
イ 明日は雨□。

ウ 明日は雨になり□。
エ 明日は雨が降ら□。



〔4〕次の――線部の「う」「よう」の表す意味をあとから選び、記号で答えなさい。

(1) お母さんが聞いたら喜ぶだろうな。

(2) 今日のことはだまつていようね。



ア 推量 イ 意志 ウ 効誘
〔5〕次の「～」に、「たい」または「たがる」を文に合うように活用させて書き入れなさい。

(1) 妹はケーキを見るとすぐに食べ～た。
(2) あなたとずっといっしょにい～た。



● そうだ：伝聞・様態

① 伝聞：そのようにだれから聞いた。

例 天気予報によると、午後から雨になるそう

だ。

② 様態：そのように見える。

例 この雲の様子からすると、じきに雨になり

そうだ。

● ようだ：推量・たとえ・例示

① 推量：おしゃかる。

例 全員無事だつたようだ。

② たとえ：似ているものにたとえる。

例 風がなく、湖面はまるで鏡のようだ。

③ 例示：例として挙げる。「ように」「ような」

の形でだけ使われます。

例 君のようないい立派な人に出会えてうれしい。

● た：過去・完了・存続

① 過去：以前あつたことを示す。

例 ゆうべは楽しかつた。

② 完了：終わつたことを示す。

例 やつと仕事が片付いた。

③ 存続：ある状態が続いている。

例 角をもつた動物が好きだ。

● まい：打ち消しの推量・打ち消しの意志

「まい」は推量・意志の「う・よう」に打ち消しの意味が加わつたものと考えることができます。

① 打ち消しの推量：「ないだろう」という気持ちを表す。

例 彼かれも今さらやめるとは言うまい。

② 打ち消しの意志：「しないようにしよう」という気持ちを表す。

例 こんな失礼な店には二度と来るまい。

● ぬ・ない：打ち消し

「ぬ」と「ない」は意味は同じですが、「ぬ」は古い言い方です。

例 いらぬことを言うな。
ここにはだれもいない。

● だ・です：断定

「だ」も「です」も断定の意味ですが、「です」はていねいな言い方です。断定とは、そうであると言いい切ることです。

例 君に会いに来たのだ。

これは本です。

1 次の——線の「そうだ」の表す意味をあとから選び、記号で答えなさい。

(1) この大根は夕食のなべに使うそうだ。

(2) 細く切ればサラダにも使えそうだ。

(3) しつぽのところはからいそうだ。



2 次の——線の「ようだ」の表す意味をあとから選び、記号で答えなさい。

(1) 日本のような自然の豊かな国は多くはない。

(2) 雪のよう|に白いはだのおひめさま。

(3) どこかで鳥が鳴|いているようだ。



ア 様態

イ 伝聞

ア 推量
ウ 例示
イ たとえ

〔3〕次の――線の「た」の表す意味をあとから選び、記号で答えなさい。

ア 過去
イ 完了
ウ 存続

(3)

学区内の地図ができた。

(2)

あのころはまだ子供だった。

(1)

おばあさんがしわがれた声で言つた。

〔4〕次の――線の「まい」の表す意味をあとから選び、記号で答えなさい。

ア 打ち消しの推量
イ 打ち消しの意志

(3)

そう思い通りにはいくまい。

(2)

君だけには負けまいと思ってがんばつたんだ。

(1)

走つても八時には着けまい。

【5】次の「～」に、「ない」を文に合うように活用させて書き入れなさい。

用させて書き入れなさい。

(1) そのかばんは、もう使わ～ ～なつた。

(2) 君が行か～ ～ば、だれが行くんだ

(3) 水が出～ ～たので、とても困った。

【6】次の「～」に、「だ」を文に合うように活用させて書き入れなさい。

(1) 君が赤組～ ～、ぼくが白組だ。

(2) 明日も来るの～ ～ば、ついでに持つ

(3) このままずつどこにいるの～

うか。

(4) これが問題の宝石～ ～のです。

問問問問問問一題目
七六五四五三二一
アイエイイエイ水干

源流の道をたどる最後のチャンス

第一講 文学的文章①

解 答 編

小学6年 国語 応用

小6 国語 応用 テキスト 解答

問一 A イ

問一
四樹の足が

問四
最初の一滴
ア

問七 まだ四樹 ？ ふかいい
イ→ア→オ→エ

問一 工

問三 多摩川の最初の一滴
問四 山の斜面・土・水神社・水神

問二 題目

一題目

問一

C B A
ア イ エ問二
肺の部分が大きい「から。」1 まっすぐ後ろ
2 かえるみたい3 深く沈んで
4 交互に5 肺
6 下毛・密生して問三
⑤ ④
7 寝場所
8 オ ウ
9 場所・こゝぞといふ場所

小6 国語 応用 テキスト 解答

問一	二題目	問二	問三	問四	問五	問六	問七	問八
C B A	ア イ	エ アイ	エ	ア	ア	（2） 工	（2） 工	イ
イ ウ ウ	イ	ア イ	ア	イ	ア	（1） 工	（1） 工	イ
湯たんぼ代わり	高い栄養分をふくんだ特製フード	皮ふから排出される炭酸ガス	人と住むよ	（例）下毛があまり生えていなくて毛も短いから。 もつれた毛が板状になつた〔犬〕	（2） 工	（2） 工	（2） 工	（2） 工
イ	（クジラやイルカなど、）海の中にすんでいる、ほ乳動物	（クジラやイルカなど、）海の中にすんでいる、ほ乳動物	（クジラやイルカなど、）海の中にすんでいる、ほ乳動物	（クジラやイルカなど、）海の中にすんでいる、ほ乳動物	（クジラやイルカなど、）海の中にすんでいる、ほ乳動物	（クジラやイルカなど、）海の中にすんでいる、ほ乳動物	（クジラやイルカなど、）海の中にすんでいる、ほ乳動物	（クジラやイルカなど、）海の中にすんでいる、ほ乳動物
イ	犬たちはその島で増	犬たちはその島で増	犬たちはその島で増	犬たちはその島で増	犬たちはその島で増	犬たちはその島で増	犬たちはその島で増	犬たちはその島で増

一題目

- 問一 マコトに「転校するなー。」
問二 教室でマコト
問三 ウ
問四 泣きだしてしまいそう
問五 意外だった
問六 イ

小6 国語 応用 テキスト 解答

一題目

問一 ウ ア エ イ
問二 マコトはぼくのことなんて大嫌い
問三 ワンの小屋の前
問四 つまらない
問五 だめだよ、吠えた。
問六 ウ b a ウ

二題目

胸の中
ワンのことはいつでも思いだせる

一題目

問一 地球が温暖化する・南極や北極の陸地の上にある雪や氷

問二 **4** (段落)
問三
問四
問五
問六

イ ウ
〔段落〕

6 (段落)

小6 国語 応用 テキスト 解答

一題目

問一 工

地球温暖化

問三 低気圧・台風 (順不同)

問四 しかし、温

問五 (例)雨が多かつたところ
問六 イ・ウ (順不同)

二題目

問一 工

ア カン・アオイ

イ ウ

ウ カン・アオイ

三 湖や池に

四 ウ

五 ウ

六 ア ウ

七 ア ウ

熱帯地方がひろがる
減ること

問五 問四 問三 問二 問一
工 (2) (1) ウ エ ウ

ア (例)心細い気分だった。
イ オ ク (順不同)

問五	問四	問三	問二	問一	二題目	一題目
イ	イ	エ	イ	工	鈍い破裂音	赤や青の ア

「ちってきた。」

一題目

- 問一 〈二つ目〉 家に帰つて
〈三つ目〉 思えばあれ
問二 うまく割れるだろうか、という不安
問三 見届ける前
問四 家に帰つて (順不同)
問五 ウ エ

一題目

問一	ウ
問二	一枚の木綿のハンカチ
問三	幼いころ、
問四	りんごへの愛情
問五	A はかりしれない苦労
問六	B 数えきれない涙が流されている
問七	りんごのなみだ色
問八	日本最後といわれる清流
問九	美しいな
問十	イ
問十一	まず、キリの 、 できあがり。
問十二	顔がこわばつた
問十三	簡単に
問十四	無責任に (順不同)
問十五	つながつて
問十六	イ

二題目

一題目

問一 聴覚だけはほぼ完全に発達して
 ことばを聞かせる
 問二 工
 問三 こどものころ
 問四 ウ
 問五 〈第一段落〉
 問六 〈第二段落〉
 〈第三段落〉
 イ ア ウ

小6 国語 応用 テキスト 解答

一題目

問一 ものといふばの結びつきを自然な形で体得する〔過程〕

問一 A ア

B エ

問三 母乳語は、とです。

問四 目に見え、指し示す〔いじば〕

問五 (3) (2) (1) ア イ エ カ
ア・ウ・オ

イ

エ

カ

ア

ウ

オ

二題目

問一 もののこと

問二 ウソがつける

問三 離乳語の習得

問四 つくり話やホラ話

問五 豊かなウ

問六 よくする

問七 こどものう

問八 てしまつ

問九 イ
イ
エ
エ
（順不同）

（順不同）

問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七	一題目
博士とサンペイ君をのけ者にした ウイ	イ	イ	イ	イ	イ	ア	サンペイ君の本

一題目

問一 イア ウイア

二題目

問一 一人きり

問二 ウ

問三 ウ

問四 ウ

問五 ウ

問六 ウ

(例) 女子全員が仲間はずれにされていた博士(ヒサンペイ君)を励ますためにチョコレートをくれたのだということ。

(例) 自分はみんなと元通りに話すようになつたが、サンペイ君だけが一人きりのまま、申し訳ないとと思う気持ちになつたから。

小6 国語 応用 テキスト 解答

問五	問四	問三	問二	問一	三題目	問五	問四	問三	問二	問一	二題目	問四	問三	問二	問一	一題目
④	③	イ	イ	ア	エ	ウ	ア	イ	エ	ラ	三(連)	②	①	飛行機	飛行機	雲
工	才						ア	イ	工		(順不同)			あくせく(過ごして いた。)		

小6 国語 応用 テキスト 解答

三題目					二題目				一題目		
問十	問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一	問四	問三
問十	問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一	問四	問三
春雨	青蚊帳	ウ	工	エ	ウ	エ	ウ	ア	ア	工	ア
ふるさとの訛	いちょう(の葉)	いちらう(の葉)	三(句切れ)	枕詞	枕詞	枕詞	枕詞	柿	蝉	太陽の光	葵

C → A → D → B
四題目

問六 五題目 五題目 五題目 五題目

ウ (4) (3) (2) (1) B 工 や D C B A

A D C B (1) (1) (1) (1)

朝 芒 菜 の 花
顔 春 秋 名月

(2) (2) (2) (2)

秋 秋 春 秋

小6 国語 応用 テキスト 解答

④

③

(4) (3) (2) (1)
まちがう
開ける
観察する
着る

勉強し・い・光つ・あわて・当て・かくし
(順不同)

(10) (9) (8) (7) (6) (5) (4) (3) (2) (1)

アイ オ ウ エ オ イ ウ エ ア

②

【名詞・動詞】
①

それ・一びき・虫・日本海・風・ところ・もの

(順不同)

②

(2) (1)
何年
今日
どうして
たつても
こそ
敵
は
船
を
見つける
の
に
は
公園
に
来
なかつ
た
の
だ。
た
の。

【ことばの単位】

ここに／荷物を／置いて／歩きましよう。
何年／たつても／忘れる／はずが／ない。

⑤

(7) (6) (5) (4) (3) (2) (1)

よん
まわら
むけれ
おき
きい
こき
き

小6 国語 応用 テキスト 解答

【形容詞・形容動詞】

⑤	④	③	②	①
(7) (6) (5) (4) (3) (2) (1)	(4) (3) (2) (1)	暖かい・ほしかつ・すばやく (順不同)	(6) (5) (4) (3) (2) (1)	(4) (3) (2) (1)
で だ だ な ら に な だ ろ	大 切 だ す て き だ ま じ め だ	お だ や か だ	か く い け か い	き つ い ま ぶ し い 正 し い 大 き い

【副詞・連体詞・接続詞・感動詞】

⑤	④	③	②	①	⑥
(7) (6) (5) (4) (3) (2) (1)	その・いろんな・小さな (順不同)	(6) (5) (4) (3) (2) (1)	(5) (4) (3) (2) (1)	(4) (3) (2) (1)	派手な・高らかに・静かだつ・急に (順不同)
エ ウ ア イ キ オ カ	エ ウ カ イ ア オ	か だ ろ う よ う に よ い ま い ら	か だ ろ う よ う に よ い ま い ら	急 な や さ し い	終 わ つ て か ら 大 変 な や さ し い

(4) (3) (2) (1)

ねまはい
えあい
もしもし

小6 国語 応用 テキスト 解答

〔2〕	〔1〕	〔5〕	〔4〕	〔3〕	〔2〕	〔1〕
(2) (1)	(3) (2) (1)	(2) (1)	(3) (2) (1)	ア・イ (順不同)	(4) (3) (2) (1)	(5) (4) (3) (2) (1)
イ ウ	イ ア イ	た か つ	イ ウ ア		ア ウ イ エ	さ せ せ せ せ せる

6	5	4	3
(4) (3) (2) (1)	(3) (2) (1)	(3) (2) (1)	(3) (2) (1)
な だ ろ な ら で	な な な く か け れ	ア イ ア	イ ア ウ